

Sustainability Report

丸善製薬 サステナビリティレポート
2023

目次

目次	P.2
編集方針／企業情報	P.3
企業理念	P.4
経営理念	P.5
社是／経営ビジョン	P.6
沿革	P.7
トップメッセージ	P.8
丸善製薬のサステナビリティ基本方針	P.9
「ISO26000」7つの中核主題とそれぞれの課題	P.10
SDGs 宣言	P.11
マテリアリティ（重要テーマ・重要課題）の特定	P.13
マテリアリティ（重要テーマ・重要課題）	P.14
サステナビリティ情報プラットフォーム	P.15
1. 組織統治	P.16
1) コーポレートガバナンス	
2) コンプライアンス	
3) リスクマネジメント	
2. 人権	P.20
1) 人権の尊重 人権方針	
2) ダイバーシティ & インクルージョン	
3. 労働慣行	P.28
1) ワークライフバランス	
2) 労働安全衛生	
3) 人材育成	
4. 環境	P.36
環境方針	
1) エネルギー消費と温室効果ガス	
2) 水	
3) 廃棄物	
4) 生物多様性	
5. 公正な事業慣行	P.44
1) 腐敗行為の防止	
2) 持続可能な調達 持続可能な調達方針	
3) サプライチェーンマネジメント サプライヤー行動規範	
4) 財産権の尊重	
6. 消費者課題	P.49
1) 品質保証 品質方針	
2) 製品開発	
3) 製品情報へのアクセス	
7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	P.56
1) コミュニティへの参画	
2) 社会的投資	

編集方針

丸善製薬は、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして「サステナビリティレポート 2023」を作成しています。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを行い、継続的に説明責任を果たしてまいります。

対象期間

2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

発行時期

2023 年 7 月（日本語版）

参考にしたガイドライン等

本レポートは、ISO26000（社会的責任に対する手引）、GRI サステナビリティ・レポーティング・スタンダード、国連グローバル・コンパクト 10 原則などを参考にして作成しています。

サステナビリティ情報プラットフォーム

Sedex（Supplier Ethical Data Exchange）、EcoVadis、CDP（気候変動・水セキュリティ）

企業情報

会社概要

商号	丸善製薬株式会社
創業	1938 年（昭和 13 年）9 月 5 日
法人設立	1949 年（昭和 24 年）7 月 13 日
資本金	9,800 万円
売上高	156.8 億円／2023 年（令和 5 年）3 月期
従業員数	437 名（臨時雇用者 26 名含む）／2023 年（令和 5 年）3 月 31 日時点
事業内容	医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売
本社・本社工場	〒722-0062 広島県尾道市向東町 14703-10
新尾道工場	〒722-0212 広島県尾道市美ノ郷町本郷字新本郷 1-140
三次工場	〒728-0017 広島県三次市南畑敷町 870-32
久井ファーム	〒722-1301 広島県三原市久井町筋原壱本松 10645-15
総合研究所	〒729-3102 広島県福山市新市町相方 1089-8
東京支店	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西 2-6-7
大阪支店	〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-6 塩野日生ビル 6 階
関連会社	ロンジェブ株式会社、丸善貿易（上海）有限公司

企業理念

PURPOSE

(丸善製薬の存在意義)

自然の恵みをつなぎ

人々が美しく健康でいられる社会（づくり）に貢献します

笑顔のあふれる社会へ

瀬戸内、しまなみ海道の起点となる尾道市。優しいおだやかな海に囲まれた土地に丸善製薬は誕生しました。そんな地域社会との関わりが環境面、文化面などあらゆる観点から、企業活動を育んできました。創業時からこれまでの間、私たちは提案型の営業に徹してまいりました。オリジナリティ溢れる発想で、あらゆる分野で甘草の応用を徹底的に試みるというのが原点でした。常に独創的な企業経営を心がけ、一貫して自然界の有用植物を中心にそのものがもつ機能性成分にこだわり続けています。私たちは、あくまでも抽出の技術に研鑽を重ね続けてきた結果が、今日の企業の開発テーマやニーズに呼応していたのだと考えています。丸善製薬をもっといい会社になりたいという願い、自分は今こうしたいと考えているといった率直な願いが、会社の姿になっていくと考えています。これまで築いてきた丸善製薬の歴史を明日へと紡ぐべく、新しい技術を培い、知恵を養い、誠実に、且つ大胆に歩んでいくことが、私たちの希望となり、社会貢献を実現していくことに繋がってまいります。健やかな社会とは、人々が今を幸せに生き、未来に向けて明るい夢を持てる社会であることだと考えています。人と地球への思いやりを生業として働ける喜びを社員一人ひとりが持っている。会社を育てるということは未来への責任を果たしていくということ。私たちは健やかな社会づくりに貢献していけると信じています。

抽出に夢を託して 80 年以上培ってきたのは使命観です。

1938 年（昭和 13 年）の創業以来、私たち丸善製薬は、一貫して自然界の有用植物を中心に抽出手段を駆使して、お客様の目線に立った、安全性の高い機能性成分を追い求め、単に安心できる素材提供だけではなく、人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全に努めてまいりました。私たちは、どのような時代にあっても、社会から要求される商品、サービスを継続して、提供していくことが企業の存在価値の源泉となる『お客様の満足』に繋がることと考えております。

丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めます、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命観として、そこから生まれる喜びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開し活動してまいりました。これからも、機能性成分をキーワードに、活動し続けたいと思います。医薬品や化粧品、食品添加物などの分野で、私たちは「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けたいと思います。

タグライン「自然の恵みをつなぐ」について

丸善製薬はバルクメーカーとして高品質な原料製品を提供することで発展を遂げてまいりました。現在はお客様と共に商品を開発、次世代商品のコンセプトを私たちから提案、お客様の依頼を受けて原料となる植物の試験栽培など様々な取り組みを行っています。

2012年にタグライン「自然の恵みを運ぶ」を制定いたしましたが、創立70周年を迎える機会に改めて企業ドメインを見つめなおし、自然の恵みをさまざまな人や場所にお届けする＝「運ぶ」という従来の枠を超えて、自然の恵みを新たな価値観に「つなげていく」という、次世代のビジョンが見えてまいりました。多様な手段によって私たちの提供できる価値を、お客様へ、社会へ、そして未来へ、しっかりとつなぎ合わせ、社会の発展に貢献していくという意味を込め、創立70周年を迎える2019年7月13日に「自然の恵みをつなぐ」へと刷新いたしました。デザインは自然の恵みを表す植物の葉のイメージを取り入れることで私たちの事業のベースとなるもの、原点を表現しています。

丸善製薬タグライン



経営理念

人間の幸福は 謝念につきる

人間の生きがいは 可能性への挑戦である

マルゼンの使命は 「奉仕」につきる

マルゼンの総意は 豊かさの追求である

社是

一. 真心をこめて

小さな雑事にも真心をこめたい。心のこもった仕事、心のこもった製品には生命がある。
訴えがある。魅力がある。

二. うるわしい職場に

志を同じくする者が一つの職場で一緒に働ける。まことに不思議な縁だ。
仲良く助けあって、うるわしい職場を作り上げよう。

三. 相手の身になって

あとから来る人のために、あとから使用する人のために、買ってくださる身になって
仕事をしよう。相手のことを考えない人は、自らほろびる。

四. それぞれの持ち場で

考える人、ペンを持つ人、体をはって働く人、それぞれの持ち場があり、それぞれの苦労がある。
自己を過信するな。他をうらやむな。

五. 自己にきびしく

職場は働くところ、そしてその対価を得るところ。しかしただそれだけではない。
自分自身を鍛えるところ。そのきびしさの中から喜びを得るところ。

経営ビジョン（中期経営計画：2019年4月～2024年3月）

一. 抽出道を究め、新たな道へ

二. 新事業領域へ、そして世界へ

三. 人が活きる会社へ

沿革

1938 年（昭和 13 年）	日暮喜八が丸善商會を創立、食品調味用甘草（カンゾウ）エキスの製造を開始
1949 年（昭和 24 年）	組織変更し丸善化成株式会社を設立
1958 年（昭和 33 年）	医薬品製造業の許可を取得し生産を開始
1958 年（昭和 33 年）	丸善商事株式会社を設立（昭和 60 年ロンジェブ株式会社に改称）
1963 年（昭和 38 年）	丸善製薬株式会社を設立
1971 年（昭和 46 年）	会長に日暮喜八、社長に日暮兵士郎が就任
1978 年（昭和 53 年）	ステピオサイド製剤の生産販売を開始
1979 年（昭和 54 年）	化粧品製造業の許可を取得
1980 年（昭和 55 年）	医薬部外品製造業の許可を取得
1983 年（昭和 58 年）	界面活性剤(キラヤニン)、生薬抽出液(センブリ、アロエ他)等の生産販売を開始
1983 年（昭和 58 年）	健康食品（牡蠣エキス、靈芝エキス）の生産販売を開始
1985 年（昭和 60 年）	広島県立三次工業団地内に三次工場(第一期工事)を建設
1989 年（平成元年）	オーストラリアに自社農場取得、ループラン有限会社を設立
1992 年（平成 4 年）	丸善化成株式会社と丸善製薬株式会社が対等合併し新社名を丸善製薬株式会社とする
1992 年（平成 4 年）	会長に日暮兵士郎、社長に日暮彰文が就任
1995 年（平成 7 年）	三次工場の第二期工事で工場を増設
2000 年（平成 12 年）	広島県立新市工業団地内に総合研究所（第一期工事）を建設
2001 年（平成 13 年）	総合研究所の第二期工事で研究所を増設
2005 年（平成 17 年）	尾道流通団地内に新尾道工場を建設
2007 年（平成 19 年）	会長に日暮淳子、社長に井元勝恵が就任
2007 年（平成 19 年）	中華人民共和国に丸善貿易（上海）有限公司を設立
2007 年（平成 19 年）	久井ファームを開設
2011 年（平成 23 年）	三次工場（第三製造棟）を増設
2013 年（平成 25 年）	新尾道工場（第二製造棟）を増設
2017 年（平成 29 年）	社長に日暮泰広が就任
2017 年（平成 29 年）	新尾道工場（第三製造棟）を増設
2021 年（令和 3 年）	三次工場（第四製造棟）を増設

トップメッセージ

私たち丸善製薬は、法令遵守を基本として、お客様の目線に立ち、安全性の高い機能性成分を追究し、人に優しく世の中に役立つ事業の継続と地球環境の保全に努めてまいりました。

2019年に創立70周年の節目を迎え、世界が直面する環境および社会問題に対する企業の関わりや課題解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と地球環境の将来に対して責任を持って日々の事業活動を行うべく、行動規範を策定して取り組みを開始しております。

丸善製薬にとって最も重要な資産は、社員です。人権を尊重し、それぞれが互いの個性を認め合い、働きがいを持つことができ、且つ安全・安心な環境を整えることが経営の根幹だと考え「社員の幸福を通じ社会貢献」を、どのような時代にあっても変わらない「丸善製薬のありたい姿」と位置付けています。「思い遣る力」「育てる力」「夢を語り合う力」この力を大切に、全社員取り組んでまいります。

丸善製薬のタグライン「自然の恵みをつなぐ」の中にある「自然の恵み」については、原料となる植物だけではなく事業活動において必要不可欠な各種エネルギーも「自然の恵み」と捉えています。原料となる植物の調達に当たっては事業の継続性のみならず種の保存の観点からも現地での栽培指導などの様々な施策を取っており、また、エネルギーを必要とする工場の操業に当たっても地球温暖化ガス排出量の低減や太陽光発電の導入等、地球環境に多面的に配慮しながら持続可能な事業活動に努めております。



代表取締役社長

日暮泰広

お取引先様や社員の皆様、また地球環境等との様々な「つながり」を大切にして社会への責任を果たすべく、この行動規範に掲げている項目について「こうありたい」と願う様々な夢や課題に対して真摯に取り組み続けることが、事業を通じて人びとの健康で豊かな暮らしへの貢献につながり、ひいては創立100周年にもつながっていくものと考えております。

丸善製薬行動規範 2023

https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/2023_conduct.pdf

丸善製薬のサステナビリティ基本方針

丸善製薬は、2022 年 2 月にサステナビリティ経営推進のため、国際規格である ISO26000 を支持し、7 つの中核主題「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」をサステナビリティ基本方針として策定いたしました。

サステナビリティ基本方針

丸善製薬株式会社は、「サステナビリティ基本方針」を定め、持続的な成長と社会への貢献を追求して参ります。ステークホルダーとの良好な関係を築き、社会課題に取り組みながら事業活動を通じて収益性を高め、良き企業市民として社会的責任を果たして参ります。

1. 組織統治

企業倫理の徹底をはかり、法令を遵守した事業活動を行います。また、迅速な意思決定が行える組織体制で透明性のある経営を行います。

2. 人権

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。

3. 労働慣行

社員の多様性を尊重し、安全でやりがいのある働きやすい企業風土の醸成に努めます。

4. 環境

環境負荷の低減に取り組み、自然と調和する持続可能な社会の実現に貢献します。

5. 公正な事業慣行

お取引様との信頼関係を大切に、公正・透明・自由な競争と適正な取引を行います。また、社会環境面に配慮した、持続可能な調達活動を実施します。

6. 消費者課題

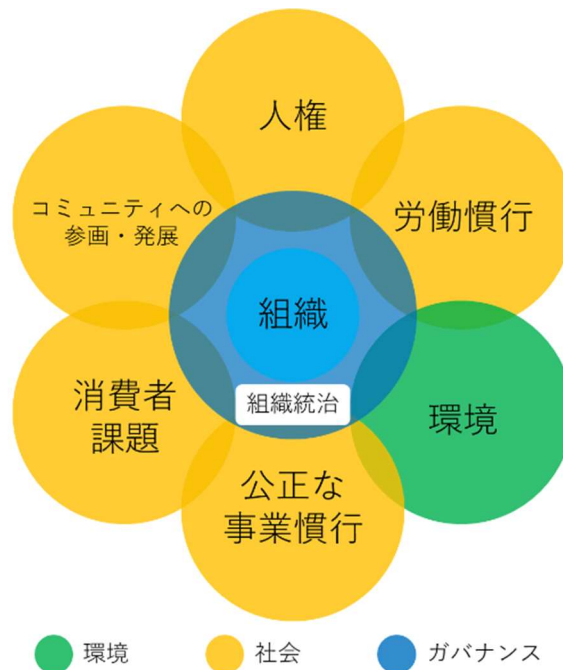
自然からの恵み（有用性）を、独自の技術により、安心・安全でお客様に満足頂ける高品質な製品として安定提供します。

7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

良き企業市民として、地域・社会とのコミュニケーションを積極的に図り、社会貢献に取り組みます。

制定：2022 年 2 月 24 日

「ISO26000」7つの中核主題とそれぞれの課題



1. 組織統治
2. 人権
 - ①デューディリジェンス
 - ②人権に関する危機的状況
 - ③加担の回避
 - ④苦情解決
 - ⑤差別及び社会的弱者
 - ⑥市民的及び政治的権利
 - ⑦経済的、社会的及び文化的権利
 - ⑧労働における基本的原則及び権利
3. 労働慣行
 - ①雇用及び雇用関係
 - ②労働条件及び社会的保護
 - ③社会対話
 - ④労働における安全衛生
 - ⑤職場における人材育成及び訓練
4. 環境
 - ①汚染の予防
 - ②持続可能な資源の利用
 - ③気候変動緩和及び適応
 - ④環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復
5. 公正な事業慣行
 - ①汚職防止
 - ②責任ある政治的関与
 - ③公正な競争
 - ④バリューチェーンにおける社会的責任の推進
 - ⑤財産権の尊重
6. 消費者課題
 - ①公正なマーケティング、情報及び契約慣行
 - ②消費者の安全衛生の保護
 - ③持続可能な消費
 - ④消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決
 - ⑤消費者データ保護及びプライバシー
 - ⑥必要不可欠なサービスへのアクセス
 - ⑦教育及び意識向上
7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展
 - ①コミュニティへの参画
 - ②教育及び文化
 - ③雇用創出及び技術開発
 - ④技術の開発及び技術へのアクセス
 - ⑤富及び所得の創出
 - ⑥健康
 - ⑦社会的投資

※出典：「日本語訳 ISO26000：2010 社会的責任に関する手引」

SDGs 宣言

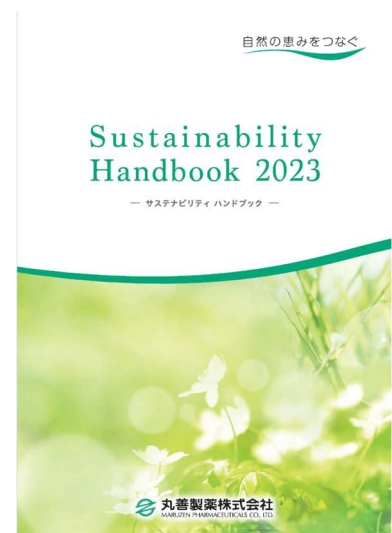
丸善製薬は、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、SDGs の達成に貢献することを、主体的に果たすべき責任と捉え、事業活動を通じて、社会・環境課題等の解決に取組み、SDGs の達成に貢献していきたいと考えております。自然界の有用植物を中心に、そのものが持つ機能性成分を医薬品、化粧品、健康食品、食品添加物などの分野で素材提供しています。

長きにわたり向き合ってきた自然の恵みを、事業を通じて人びとの健康で豊かな暮らしへ貢献するため、事業に関わる全ての皆様と地球環境の将来に対して責任を持って日々の事業活動を行うべく、取り組みを開始しています。

これまでに経済産業省関東経済産業局公表の「SDGs の観点で市場・社会から期待される基本的な事項」をもとに作成されたオリジナルのチェックシートにより、当社の SDGs への取り組み状況の確認を行い、また全従業員の SDGs 貢献への意識向上のため、SDGs バッジを配布いたしました。このバッジは 2014 年、2018 年の 2 度にわたる集中豪雨により土砂災害被害を受けた広島市安佐北区大林地区の間伐材を使い製作されたものです。バッジを装着することで気候変動対策や緑の豊かさを守る意識を高めながら日々の業務に取り組んでいます。

2022 年度は、2050 年のあるべき姿・ありたい姿を想い描き、自社事業を通じて解決する社会課題を明確にした上でマテリアリティ（重要テーマ・重要課題）を特定し、2030 年目標を設定いたしました。また全従業員へのサステナビリティ浸透を図るため「サステナビリティハンドブック 2023」を制作し配布いたしました。

これらに総合的に取り組む事で、経営理念や企業理念の実践、企業価値の向上に取り組んでまいります。



* 2015 年 9 月国連サミットで参加国 193 ケ国により採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載されている 2016 年から 2030 年までの 17 の目標です。
(国際連合広報センターWeb サイトより)

丸善製薬株式会社 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2021年6月3日
丸善製薬株式会社
代表取締役 日暮 泰広

当社のSDGsへの貢献

公正な企業活動

役員と従業員が一体となり、法令遵守を徹底した企業活動を実践することで、パートナー、お取引先、地域の皆さまから信頼いただける企業を目指します。

- 【主な取り組み】
- ・法令遵守徹底に向けた社内規程・体制整備と継続的な啓発
 - ・汚職・贈収賄禁止の明示
 - ・最先端のセキュリティ対策による情報の管理徹底
 - ・個人情報保護ポリシー制定・開示と情報管理状況の定例監査実施



人権の尊重

全従業員と、原材料調達から製造・販売にいたるまで関わるすべての人の人権を尊重し、誰もが働きがいを持てる社会の実現に貢献してまいります。

- 【主な取り組み】
- ・休暇制度充実や業務効率化による長時間労働抑制等、働き方改革推進によるワークライフバランス向上(広島県働き方改革実践企業:2017認定)
 - ・適性・価値観に応じた人材育成とキャリア形成・キャリア支援制度の充実
 - ・調達方針への基本的人権尊重の明記と継続的な啓発の実施



環境負荷の低減

事業活動における環境への負荷を考慮した取り組み推進により、温室効果ガスの排出量削減を実践し、地球環境の保全に努めてまいります。

- 【主な取り組み】
- ・環境マネジメントシステムの確立と継続的改善・社内での啓発実施
 - ・省エネ設備・LED照明の導入による工場・オフィスでの省エネ実践
 - ・環境負荷低減エネルギー推進(LNGへの転換、ソーラー発電導入)
 - ・排水処理・水質管理徹底による水資源の保全
 - ・久井ファームにおける抽出残渣堆肥化による循環サイクルの構築



品質・安全性の確保と向上

品質の確保・向上のための体制構築と継続的改善、安全性の管理徹底により、お客様に安心して使っていただける確かな製品を安定してお届けしてまいります。

- 【主な取り組み】
- ・品質管理部門の設置と品質検査の徹底
 - ・GMPを遵守した工場での主力製品製造
 - ・三次工場・関連部門のISO9001:2015認証取得
 - ・設計段階からの環境・健康リスク評価の徹底



自然の恵みをつなぐ

「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら、最先端の技術とたゆまぬ研究・開発により、お客様、社会そして未来へと、自然の恵みをお届けし続けます。

- 【主な取り組み】
- ・素材探索から製品開発までお客様ニーズに対応するための分析技術・評価技術の研鑽・向上のための取り組み
 - ・社内アイデア提案会の開催
 - ・特許・商標等の知的財産管理の徹底



地域への貢献

“Work locally. Think globally”(尾道から世界を考える)を実践する企業として、尾道から世界へ新たな価値をお届けし、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

- 【主な取り組み】
- ・地域の消費者へ直接お届けする「尾道健康館シリーズ」の企画・販売
 - ・尾道市内の小学校への尾道健康館シリーズのドリンク寄付
 - ・尾道市役所建設への寄付
 - ・尾道地区における積極的な設備投資や地元企業への積極発注
 - ・経済産業省「地域未来牽引企業」への認定



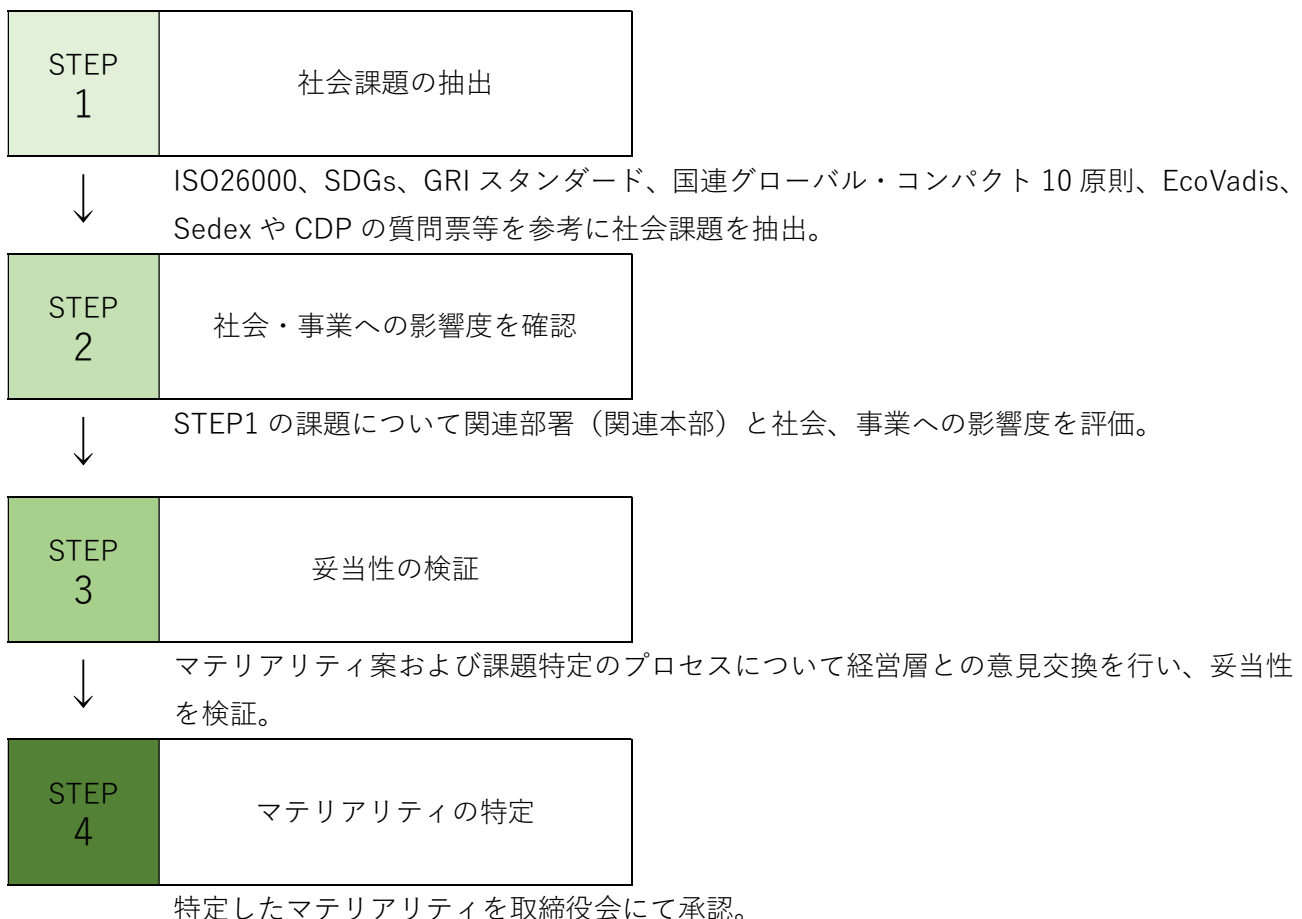
※SDGsとは Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。持続可能な社会をつくるために、世界が抱える課題を17の目標と169のターゲットに整理したもの(2015年9月に国連で採択)。2030年までに、政府、企業、地域社会のあらゆる人が、SDGsを実現するための役割を担っている。

マテリアリティ（重要テーマ・重要課題）の特定

丸善製薬は、経営ビジョンの実現や SDGs へ貢献するために、2050 年のあるべき姿・ありたい姿を思い描き、2050 年時点の社会像からバックキャストして 2050 年、2030 年までに取り組むべきマテリアリティ（重要テーマ・重要課題）の検討を進め、2022 年度に以下のステップを通じてマテリアリティを特定いたしました。

マテリアリティは、事業や地球環境、社会のサステナビリティを考慮した、当社事業と社会の双方にとって重要な内容であることが望ましいととらえています。マテリアリティの特定後は社内外のステークホルダーからの助言等も踏まえながら、各マテリアリティに対する目標や KPI（Key Performance Indicator／重要業績評価指標）の設定を行い、2024 年度から新たにスタートする中期経営計画（2024 年 4 月～2030 年 3 月）の重要課題として組み込み、経営とサステナビリティを推進してまいります。

マテリアリティの特定ステップ



マテリアリティ（重要テーマ・重要課題）

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
美と健康への貢献	美と健康へ貢献する 製品開発	自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな社会を支え、すべての人が笑顔であり続ける未来を実現します。	■食品 人生 100 年時代到来に向け健康寿命延伸をキーワードに製品開発を実施します。製品の有効性や安全性といった機能面は勿論、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼頂けるモノづくりを実施します。 ■化粧品 エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な面で信頼される化粧品原料開発を行うと共に、お客様の価値創造を徹底的にサポートします。	
	エネルギー消費量の削減	エネルギー消費量原単位換算で、2013 年度比 40%削減を目指します。	エネルギー原単位換算で、2013 年度比 20%削減を目指します。	
環境負荷の低減	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量の実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指します。	温室効果ガス排出量について、Scope1、2 において 2013 年度比 46%削減を目指します。Scope3 において 2027 年までに排出量を把握し、2030 年に向け削減していくことを目指します。	
	水使用量の削減と排水管理	サプライヤーでの環境負荷低減の技術支援を実施し、サプライチェーン全体として水の管理を進めます。	水資源使用原単位量（取水量）について、2013 年度比 10%削減を目指します。	
	廃棄物発生量の削減	5R (Reduce (削減)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化)、Renewable (持続可能な資源の活用)、Repair (修理して使う)) を推進し廃棄物の排出ゼロを目指します。	マテリアルフロー分析を実施し、廃棄物発生量の削減を進めます。 Reduce：プラスチック使用量の削減 Renewable：抽出原料残渣の 100%有効利用化(堆肥化/燃料化/飼料化)	
持続可能な調達と サプライチェーン マネジメント	持続可能な調達	全ての原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	主要原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	
	サプライチェーン マネジメント	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	
人権の尊重	人権尊重	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	
	ダイバーシティ & インクルージョン	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。障がい者、女性、シニア層がより活躍できる環境を目指します。	
人権の尊重 (労働慣行)	ワークライフバランス	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	
	労働安全衛生	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働けることを目指します。	労働安全衛生に関する法令遵守のもと、安全衛生に関する基本ルールの徹底、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤を強固にすることで、従業員が、安全、健康で快適に働ける職場環境づくりを目指します。	
	人材育成	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	

サステナビリティ情報プラットフォーム

Sedex (Supplier Ethical Data Exchange、セデックス)

Sedex は、責任ある調達活動の推進などを目的としたイギリスの NPO 会員組織であり、会員間で責任ある事業慣行の情報を共有することのできるプラットフォームを提供しています。

丸善製薬では 2016 年に加入し、本社・本社工場、新尾道工場、三次工場の 3 サイトを登録いたしました。取引先からのエシカル情報の共有要請に応えるために、サプライヤーとして SAQ (Self Assessment Questionnaire) を回答し、プラットフォームを通じて情報共有を行っています。

EcoVadis (エコバディス)

EcoVadis 社 (エコバディス社) は、グローバルサプライチェーンを通じた企業の環境・社会的慣行の改善を目指して 2007 年に設立された企業の ESG 関連取り組みの評価機関です。2022 年現在、約 160 か国・約 200 業種 90,000 社以上の企業を対象に、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の 4 分野における企業の方針／施策／実績について評価を行い、スコアカードを発行しています。

丸善製薬では 2018 年に加入し、4 分野の質問票への回答を行っています。

2022 年度は、2020 年度、2021 年度に続き上位 25%以内となる「シルバー」評価を獲得いたしました。

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
評価			
総合得点	54 点	59 点	65 点

CDP (気候変動・水セキュリティ)

CDP は、2000 年にイギリスで設立された国際的な環境非営利団体 (NGO) です。機関投資家によって運営されており、企業に気候変動、水、森林等に関する質問書を提供して情報開示を求め、回答内容から各企業のスコアリングを行なっています。

丸善製薬では 2016 年より「気候変動」「水セキュリティ」の各質問書への回答を行っており、2022 年度は気候変動「B-」、水セキュリティ「C」の評価でした。

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
気候変動	C	D	B-
水セキュリティ	C	C	C

1. 組織統治

企業倫理の徹底をはかり、法令を遵守した事業活動を行います。また、迅速な意思決定が行える組織体制で透明性のある経営を行います。

1) コーポレートガバナンス

経営の監督と業務執行の体制

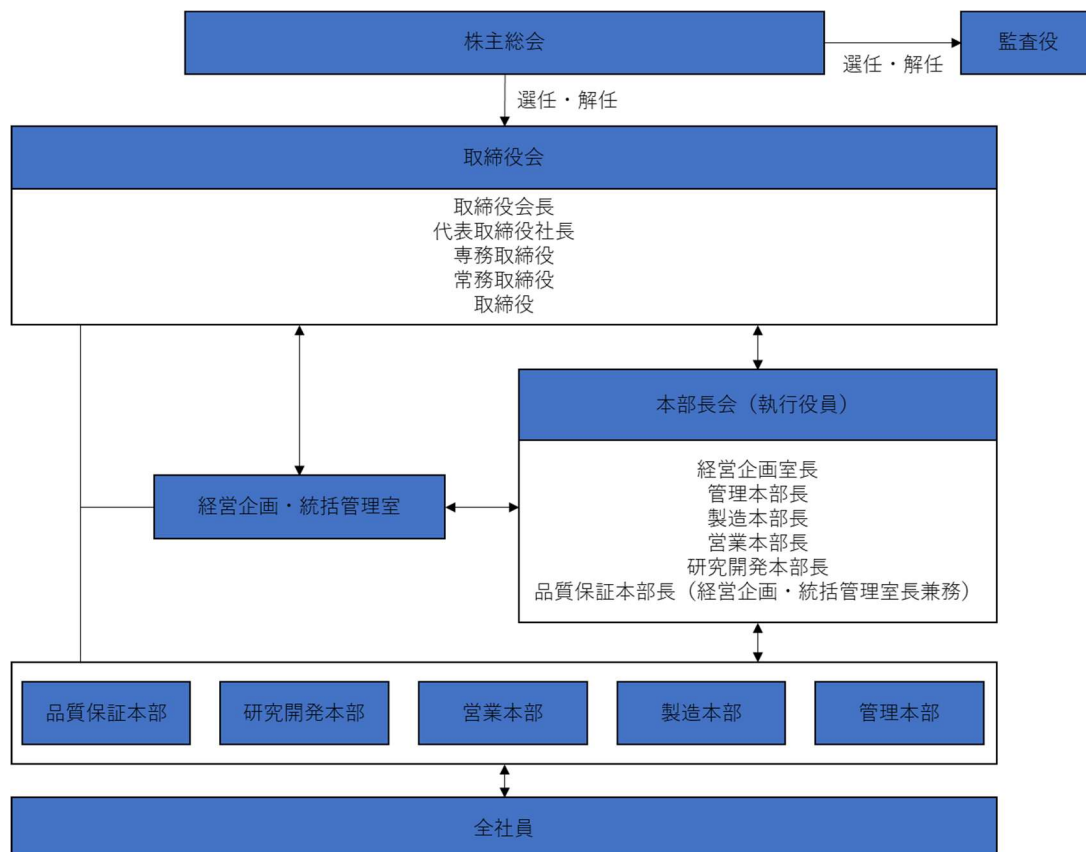
丸善製薬は、取締役会で経営の重要事項の決議、執行役員も交えた経営会議で業務執行状況の確認を行います。監査役は会計監査を実施しています。

また、執行役員制度に基づき、執行役員は、取締役会及び代表取締役の統括のもとに職務を執行することで経営の意思決定の迅速・適正化を図っています。

取締役会

取締役会は取締役全員（6人）で構成され、株主総会終結直後および毎月1回開催されます。取締役会では、法令及び当社「取締役会規程」で定める事項について決議し、また報告を受けるとともに、取締役および執行役員の職務の執行を監督しています。

内部統制システム



専門委員会

委員会名称	主管本部
労働時間等設定改善委員会	管理本部
安全衛生委員会	製造本部・研究開発本部
社内倫理的配慮確認委員会	研究開発本部
エネルギー管理委員会	製造本部・管理本部
発明審査委員会	管理本部・研究開発本部

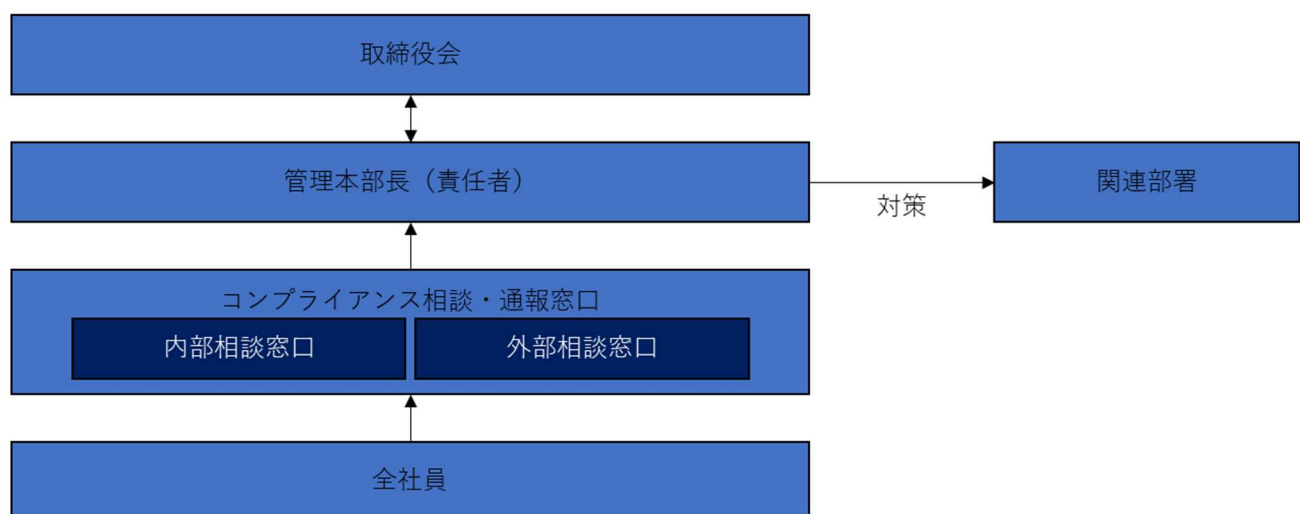
2) コンプライアンス

丸善製薬は、役員と従業員が一体となり、社内規程で法令遵守を掲げ、法令遵守を徹底した公正な企業活動を行っています。企業活動に関する法令の制定や改正があった場合には、総務部門が中心となって社内に通達し周知徹底を図っています。

法令や倫理を含む会社の諸規程への違反行為を発見した場合は、「コンプライアンス相談・通報窓口」に相談や通報をすることができ、相談・通報窓口は寄せられた内容の精査を行い、事実を正確に把握した上で必要に応じて是正措置をとっています。

2022 年度は、内部相談窓口では相談相手が従業員ということもあり心理的に利用し辛いことに配慮し、新たに外部相談窓口を設置することで相談しやすい環境を整えました。外部相談窓口では専門カウンセラーが電話/WEB/対面/オンラインでの相談に対応し、相談者が求めない限りは会社には相談内容を通報せず、プライバシーが確保された環境で相談をすることができます。会社には、コンプライアンス案件か、ハラスメント案件か、それぞれの相談件数が報告され、相談者が会社への内容の通知を求めた場合に限り、相談者の合意が得られた情報の範囲で連絡が入り、会社としての対応をとることができる体制を構築しました。

コンプライアンス対応体制



コンプライアンスの相談・内部告発数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
内部相談窓口	0 件	0 件	0 件	0 件
外部相談窓口				0 件

3) リスクマネジメント

丸善製薬は、リスクに対し規程やガイドラインを策定し、災害および事故のリスク、情報セキュリティ上のリスク、品質上のリスクに的確に対処するための組織横断的な管理体制を構築してリスクマネジメントを行っています。

BCP（事業継続計画）への取り組み

丸善製薬は、医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売を主な事業としており、これらの事業が中断した場合、当社製品ならびにサービスを利用されているお客様に多大な影響を与え、お客様からの信頼を失うことが予想されることから、当社の事業を中断させる様々な脅威への対応として、事業継続計画を策定し、社内外の環境変化に応じた継続的改善を行っていくことを宣言しています。

情報セキュリティへの取り組み

丸善製薬は、情報資産の保護と適切な使用のための対策を実施して、情報セキュリティの維持・向上の推進に取り組んでいます。また、「個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」を定め、保有する個人情報は適切に取り扱い、厳重に管理しています。

サイバー攻撃に備え、24 時間 365 日対応の侵入検知サービスによる監視の強化や感染拡大検知技術を利用した 2 次感染防止対策など、最先端のセキュリティ対策を継続して行っています。標的型メール攻撃対策システムを導入し、侵入を防ぐ対策に限らず、攻撃を受けた際の検知・分析への対策も強化しています。

また、情報セキュリティ教育や定期的な啓発活動として、役員・従業員を対象に「標的攻撃型メールに対する訓練」を実施しております。このメール訓練は、役員・従業員への「情報セキュリティに対する危機意識の強化」をはかるとともに、訓練結果を分析し今後のセキュリティ対策へ役立てることを目的としており、訓練後には、分析結果および情報セキュリティを取り巻くリスクについての報告を行っています。

情報セキュリティに関する研修実績

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	409 名	417 名	422 名	437 名
受講者数	409 名	417 名	422 名	437 名
受講率	100%	100%	100%	100%

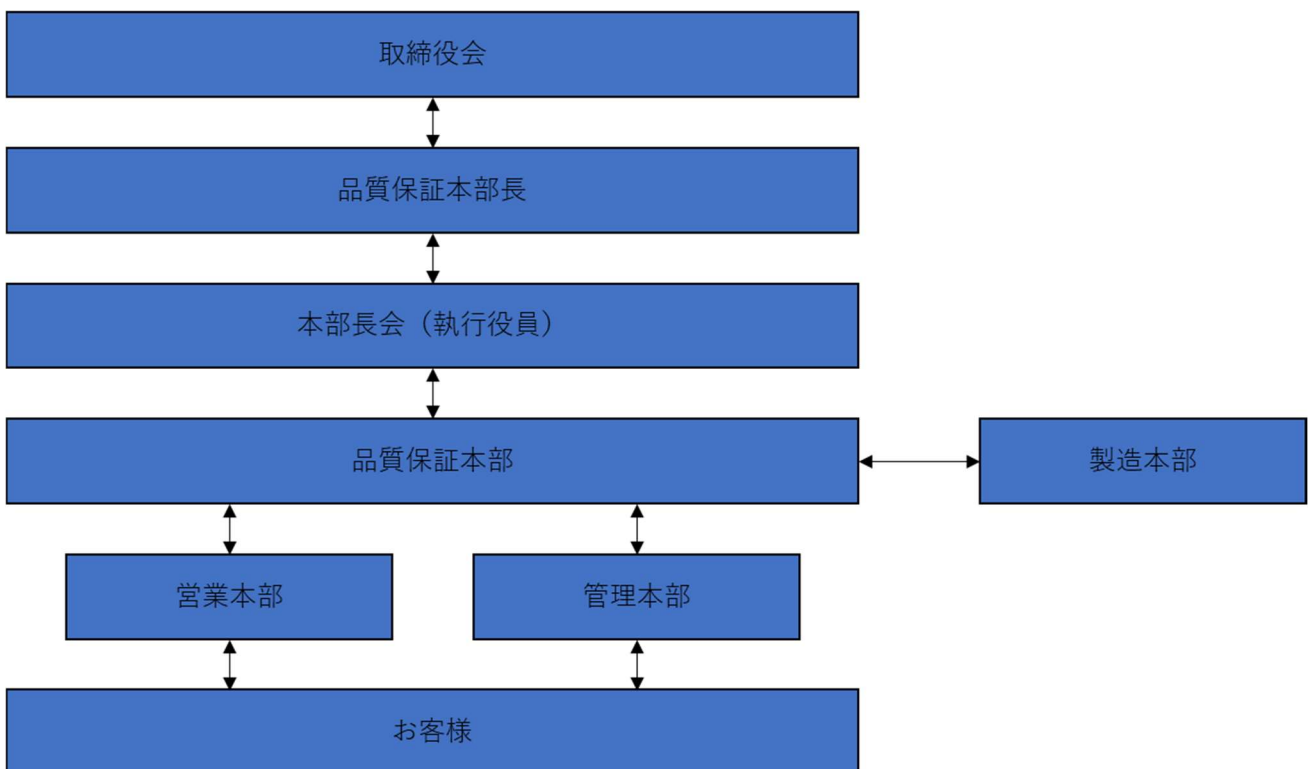
クレーム発生時の取り組み

丸善製薬は、クレーム発生時には品質保証本部が軸となり発生原因と対策を明確にし、迅速な対応を行っています。また重大クレームが発生した際には速やかに取締役会に報告して適切な措置を講じています。併せてクレーム情報は関連部署への水平展開を図ることで再発防止に役立てており、製造時のトラブルについても同様に原因と対策を明確にして情報共有を行い、再発防止に役立てています。

製品回収／健康・安全問題の発生件数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
製品回収件数	0 件	0 件	0 件	0 件
健康・安全問題件数	0 件	0 件	0 件	0 件

重大クレーム対応体制



2. 人権

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。

1) 人権の尊重

丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めます、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命観として、そこから生まれる喜びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開しています。これからも「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けていくためには、世界中の人権が守られ尊重される社会の構築が重要です。

バリューチェーン全体において直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、事業に関わるすべての「ひと」の人権を尊重するため、2022 年 2 月に取締役会での審議を経て、「人権方針」を策定いたしました。今後は、当方針のもと人権尊重の取り組みを推進し、継続的な改善を行いながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
人権の尊重	人権尊重	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の 人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、 能力を伸ばしていける環境づくりを目指しま す。	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の 人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、 能力を伸ばしていける環境づくりを目指しま す。	

人権方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「人権方針」を策定し、企業活動全体において、すべての「ひと」が生まれながらにして持つ基本的権利である人権を尊重し、永続的に実現していくための活動を推進してまいります。

1. 基本的な考え方

丸善製薬は、国際人権章典（「世界人権宣言」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」）及び国際労働機関（ILO 宣言）を支持し、規定された人権を尊重しています。また、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づく取り組みの実行を通じて、人権尊重の責任を果たします。

2. 人権尊重責務の実行

丸善製薬は、自らが人権侵害を引き起こさないよう努めます。また丸善製薬の事業活動において人権に対する負の影響が生じていることが判明した場合は、是正に向けて適切な対応をとり人権尊重の責任を果たします。

3. 適用範囲

本方針は、丸善製薬の全ての役員と従業員に適用します。また丸善製薬の製品・サービスに関係する全てのビジネスパートナー及びサプライヤーに対して、本方針への理解と支持を求め、人権の尊重に努めて頂くよう働きかけていきます。

4. 適用法令

丸善製薬は、事業活動を行う各国における法令および規制を遵守します。各国の法令および規制と国際的に認められた人権規範との間に矛盾がある場合は、国際的な人権規範を尊重する方法を追求していきます。

5. 人権デューディリジェンスの実施

丸善製薬は、人権デューディリジェンスの仕組みを構築し、継続的に実施します。丸善製薬の事業活動が社会に与える人権への負の影響を特定し、その防止および軽減に取り組みます。

6. 救済

丸善製薬の事業活動において人権への負の影響を引き起こしたことが明らかとなった場合、あるいは取引関係者などを通じた関与が明らかとなった場合、適切な手続きを通じてその救済に取り組みます。

7. 対話・協議

丸善製薬は、本方針を実行する過程において、ステークホルダーや独立した外部専門識者との対話と協議を行います。

8. 教育・研修

丸善製薬は、全ての役員と従業員に対し、本方針が丸善製薬の全ての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、適切な研修・教育を行います。

9. 情報開示

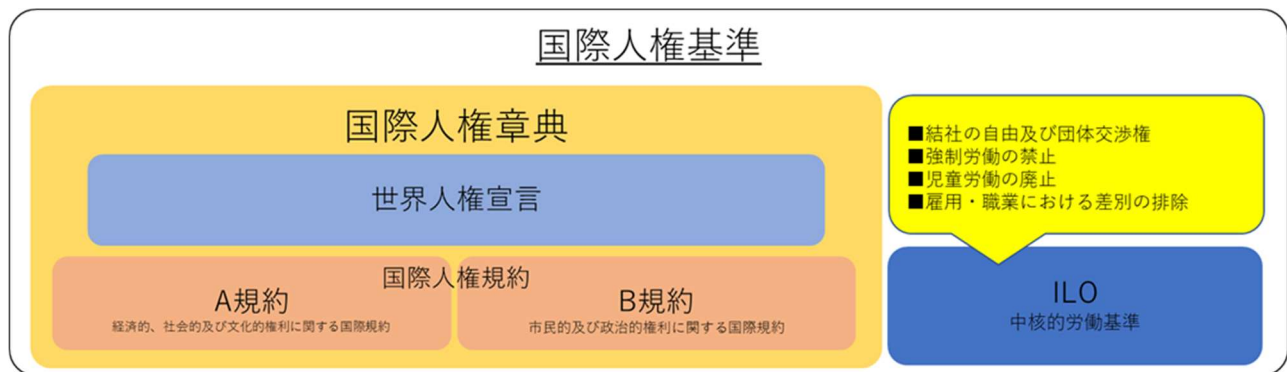
丸善製薬は、人権尊重の取り組みおよび人権デューディリジェンスの進捗状況について報告します。

10. 担当責任者

丸善製薬は、本方針の実行に責任を持つ責任者を明確にし、実施状況を監督します。

制定：2022 年 2 月 9 日

国際人権基準に関する模式図



人権デューディリジェンス

企業における基本的な人権尊重のあり方を示す「国連ビジネスと人権に関する指導原則」では、国家による人権保護の義務、人権を尊重する企業の責任、人権侵害を受けたものへの救済について記されています。2020年に日本政府は「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に沿って「ビジネスと人権に関する行動計画（NAP）」を公表しました。

丸善製薬は、人権への悪影響を特定し、予防・軽減し、どのように対処するかについて説明するために、人権への悪影響の評価、調査結果への対処、対応の追跡調査、対処方法に関する情報発信を実施する人権デューディリジェンスの仕組みを構築することが必要であると考えています。

2022年度は、「今企業に求められる『ビジネスと人権への対応』詳細版（法務省）」を参考に企業が尊重すべき人権の分野、人権に関するリスクの事例と丸善製薬の現状と課題を確認しました。

～企業が尊重すべき主要な人権の分野～

01	賃金の不足・未払、生活資金	14	テクノロジー・AIに関する人権問題
02	過剰・不当な労働時間	15	プライバシーの権利
03	労働安全衛生	16	消費者の安全と知る権利
04	社会保障を受ける権利	17	差別
05	パワーハラスメント（パワハラ）	18	ジェンダー（性的マイノリティを含む）に関する人権問題
06	セクシュアルハラスメント（セクハラ）	19	表現の自由
07	マタニティハラスメント（マタハラ） パタニティハラスメント（パタハラ）	20	先住民族・地域住民の権利
08	介護ハラスメント（ケアハラスメント）	21	環境・気候変動に関する人権問題
09	強制的な労働	22	知的財産権
10	居住移転の自由	23	賄賂・腐敗
11	結社の自由	24	サプライチェーン上の人権問題
12	外国人労働者の権利	25	救済へアクセスする権利
13	児童労働		

* 今企業に求められる『ビジネスと人権への対応』詳細版（法務省）より

ハラスメント対応

丸善製薬は、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメントなどあらゆるハラスメントが発生しないよう「ハラスメント宣言書」を社内公開し、注意を呼びかけ、職場環境の改善に努めています。

「ハラスメント相談・通報窓口」を設け、各種ハラスメント行為への対応、従業員の意識向上とその実践に取り組んでいます。

定期的な啓発活動として、役員・従業員を対象に「人権（差別・ハラスメント）に関する研修」を実施することで社内浸透に努めております。

2022 年度は、内部相談窓口では相談相手が従業員ということもあり心理的に相談し辛いことに配慮し、外部相談窓口を設けることで相談しやすい環境を整えました。外部相談窓口では専門カウンセラーが電話/WEB/対面/オンラインでの相談に対応し、相談者が求めない限りは会社には相談内容を通報せず、プライバシーが確保された環境で相談をすることができます。会社には、コンプライアンス案件か、ハラスメント案件か、それぞれの相談件数が報告され、相談者が会社への内容の通知を求めた場合に限り、相談者の合意が得られた情報の範囲で連絡が入り、会社としての対応をとることができる体制を構築しました。また管理職を対象としたハラスメント研修を実施いたしました。

ハラスメント対応体制



差別・ハラスメントの内部告発数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
差別・ハラスメントの内部告発数	0 件	1 件	0 件	3 件
内部相談窓口	0 件	1 件	0 件	2 件
外部相談窓口				1 件

人権（差別・ハラスメント）に関する研修実績

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	409 名	417 名	422 名	437 名
受講者数	409 名	417 名	422 名	437 名
受講率	100 %	100 %	100 %	100 %

管理職を対象とした人権（差別・ハラスメント）に関する研修実績

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	—	—	—	63 名
受講者数	—	—	—	63 名
受講率	—	—	—	100 %

2) ダイバーシティ & インクルージョン

丸善製薬は、多様性を尊重しお互いが認め合う、働きやすく働きがいのある職場をつくります。あらゆる差別のない雇用を推進し、多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことのできる職場環境づくりに取り組み、新しい価値を創造し続けることを推進してまいります。

現在の変化の著しい市場環境においては、多様性（ダイバーシティ）と包摂（インクルージョン）の推進は企業経営に不可欠であると考えています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
人権の尊重	ダイバーシティ & インクルージョン	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。	多様な人材が個性や能力を発揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。障がい者、女性、シニア層がより活躍できる環境を目指します。	

女性の活躍推進

丸善製薬は、さらなる企業価値向上のためには女性の活躍が不可欠であると考えています。「女性活躍推進法」に基づき行動計画を策定し、長期的に女性従業員が活躍できるよう仕事と育児の両立支援等環境整備に取り組んでいます。2022 年度は、女性従業員比率 31.8%、女性管理職比率 11.1%、男女間の勤続年数の差が 5.5 年となっています。

女性活躍推進法に基づく行動計画（2020 年作成）では、女性の管理職数が少ないこと、女性の勤続年数が男性に比べ短いことを課題と捉え、2025 年度までに女性管理職数を 10 名以上にする、男女の勤続年数の差を 0.5 年以上短縮することを目標として掲げています。

性別を問わず活躍できる企業であり続けるために、自信を持って働き、キャリアアップを目指すことを応援する研修の実施、管理職に必要なスキル習得のための研修の実施などに取り組んでまいります。

従業員数／女性比率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
従業員数	409 名	417 名	422 名	437 名
男性	288 名	287 名	291 名	298 名
女性	121 名	130 名	131 名	139 名
女性従業員比率	29.6%	31.2%	31.0%	31.8%
正社員	381 名	387 名	397 名	411 名
男性	277 名	276 名	284 名	289 名
女性	104 名	111 名	113 名	122 名
女性正社員比率	27.3%	28.7%	28.5%	29.7%
臨時雇用者	28 名	30 名	25 名	26 名
男性	11 名	11 名	7 名	9 名
女性	17 名	19 名	18 名	17 名
女性臨時雇用者比率	60.7%	63.3%	72.0%	65.4%

取締役数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
取締役総数	6 名	6 名	6 名	6 名
男性	5 名	5 名	5 名	5 名
女性	1 名	1 名	1 名	1 名
女性取締役比率	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%

管理職数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
管理職総数	61 名	63 名	61 名	63 名
男性	55 名	57 名	55 名	56 名
女性	6 名	6 名	6 名	7 名
女性管理職比率	9.8%	9.5%	9.8%	11.1%

正社員新規採用者数／離職者数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
正社員新規採用者総数	28 名	18 名	20 名	24 名
男性	18 名	10 名	16 名	15 名
女性	10 名	8 名	4 名	9 名
正社員離職者総数	12 名	12 名	10 名	9 名
男性	10 名	11 名	8 名	9 名
女性	2 名	1 名	2 名	0 名

平均年齢

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
全従業員	42.0 歳	42.2 歳	40.9 歳	41.2 歳
男性	42.9 歳	43.3 歳	41.2 歳	41.5 歳
女性	39.8 歳	39.7 歳	40.1 歳	40.4 歳

平均勤続年数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
全従業員	15.4 年	17.0 年	15.3 年	15.5 年
男性	17.3 年	19.5 年	16.8 年	17.2 年
女性	11.1 年	11.4 年	11.9 年	11.7 年
男女差	6.2 年	8.1 年	4.9 年	5.5 年

男女の賃金差異

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
全従業員の平均年間賃金	—	—	—	6,035,437 円
男性	—	—	—	6,506,216 円
女性	—	—	—	4,982,375 円
全従業員の男女の賃金の差異	—	—	—	76.6%
正社員の平均年間賃金	—	—	—	6,326,578 円
男性	—	—	—	6,792,977 円
女性	—	—	—	5,261,932 円
正社員の男女の賃金の差異	—	—	—	77.5%
臨時雇用者の平均年間賃金	—	—	—	2,112,034 円
男性	—	—	—	2,228,212 円
女性	—	—	—	1,909,665 円
臨時雇用者の男女の賃金の差異	—	—	—	85.8%

* 賃金の差異 = 女性の平均年間賃金 / 男性の平均年間賃金 × 100%

シニアの活躍推進

丸善製薬は正社員の定年年齢を 60 歳から 65 歳へ変更し、従業員が安心して長く勤めることができる環境を整えました。また、労働意欲が高く、今後も会社で能力を発揮できる 65 歳以上の従業員を再雇用する制度を設け、年齢にかかわらず活躍できる機会を提供しています。

再雇用者数／再雇用率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
定年退職者数	6 名	7 名	5 名	4 名
うち再雇用者数	0 名	0 名	1 名	0 名
再雇用率	0%	0%	20.0%	0%
再雇用者総数	1 名	1 名	2 名	2 名

障がい者の活躍推進

丸善製薬は、障がい内容に配慮し、本人の能力や意欲、適性を考慮して採用、人員配置を行っています。障がいを抱えていても、能力を発揮し、生き活きと活躍できる人事制度を運用しています。2018 年 9 月に「障がい者雇用推進宣言」を宣言し、障がい者雇用の促進に努めてまいりました。2022 年 3 月時点で雇用率は、2.92%となりました。法定雇用率（企業：2.3%）は満たしておりますが、更なる促進を目指してまいります。

障がい者雇用

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年
障がい者雇用者数（3 月末時点）	11 名	14 名	13 名	13 名
障がい者雇用率（年間）	2.22%	2.12%	2.61%	2.92%

パートナーシップ制度

丸善製薬では、事実婚、内縁、同性婚パートナーを法律婚と同等に扱うパートナーシップ制度の制定について検討を進めてまいりました。2023 年 4 月よりパートナーシップ制度規程を新設し、就業規則、給与規程、赴任規程、育児介護規程など関連する規程を改定した上で運用することとなりました。

3. 労働慣行

社員の多様性を尊重し、安全でやりがいのある働きやすい企業風土の醸成に努めます。

1) ワークライフバランス

丸善製薬は、働き方改革に貢献する企業を目指して、「労働時間等設定改善委員会」を設置し、有給休暇取得の促進と残業時間低減の促進、在宅勤務、育児・介護・看護の支援等に努めています。従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。

マテリアリティ		2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
人権の尊重 (労働慣行)	ワークライフバランス	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	

有給休暇取得の促進

年次有給休暇の取得促進を図るため、「時間単位年休」を導入し、「有給休暇取得計画実績管理表」の共有や、管理職が呼びかけを行うことにより、有給休暇を取得しやすい環境づくりに取り組んでいます。

1 人当たり年間 12 日の有給休暇を取得することを目標として設定し、2022 年度は取得日数が 13 日／人、取得率が 73.0%となりました。

従業員 1 人当たりの年次有給休暇取得日数／取得率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
取得日数	11 日／人	11 日／人	12 日／人	13 日／人
取得率	62.3%	65.7%	70.0%	73.0%

残業時間低減の促進・ノー残業デーの実施・業務改善

残業時間の低減促進を図るため、1 人当たり月間 5.0 時間を残業時間目標として設定し、管理職が部員・課員へ就業時間以降の早期退社を促し、管理者自身が長時間労働にならないよう注意喚起をしています。また、月 2 回水曜日に定時退社の取り組みとして「ノー残業デー」を設けています。引き続き「作業の効率化」「無駄な残業を行わない」といった従業員の意識改革につとめてまいります。

従業員 1 人当たりの月次実働時間と月次平均残業時間

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
月次実働時間	141 時間／月	140 時間／月	139 時間／月	140 時間／月
月次平均残業時間	5.00 時間／月	2.00 時間／月	3.30 時間／月	3.24 時間／月

育児・介護・看護と仕事の両立

ライフスタイルの多様化に伴い、働き方にも多様性が求められる中、育児・介護を目的とした休業、子の看護休暇、家族の介護休暇、育児・介護時短勤務、育児時差出勤などの制度を設けています。

時短勤務者数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
時短勤務者数	8 名	10 名	12 名	9 名

育児休業の取得と休業後の復職率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
当該年度に子が出生した従業員数	16 名	22 名	16 名	10 名
男性	12 名	18 名	15 名	8 名
女性	4 名	4 名	1 名	2 名
育児休業を取得した従業員の総数	5 名	4 名	4 名	3 名
男性	1 名	0 名	3 名	1 名
女性	4 名	4 名	1 名	2 名
育児休業取得率	31.3%	18.2%	25.0%	30.0%
男性	8.3%	0%	20.0%	12.5%
女性	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
育児休業から復職後に在籍している従業員の総数	5 名	4 名	4 名	0 名
男性	1 名	0 名	3 名	0 名
女性	4 名	4 名	1 名	－ 名
育児休業後の従業員の復職率	100%	100%	100%	0%
男性	100%	－ %	100%	0%
女性	100%	100%	100%	－ %
育児休業後の従業員の定着率	100%	100%	100%	0%
男性	100%	－ %	100%	0%
女性	100%	100%	100%	－ %

介護休業の取得状況

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
介護休業を取得した従業員の総数	0 名	0 名	0 名	0 名
男性	0 名	0 名	0 名	0 名
女性	0 名	0 名	0 名	0 名
介護休業から復職後に在籍している従業員の総数	0 名	0 名	0 名	0 名

男性	0 名	0 名	0 名	0 名
女性	0 名	0 名	0 名	0 名
介護休業後の従業員の復職率	－ %	－ %	－ %	－ %
男性	－ %	－ %	－ %	－ %
女性	－ %	－ %	－ %	－ %
介護休業後の従業員の定着率	－ %	－ %	－ %	－ %
男性	－ %	－ %	－ %	－ %
女性	－ %	－ %	－ %	－ %

ワークライフバランスに関する研修

2022 年度は管理職を対象にワークライフバランスに関する研修として労働時間管理、改正育児介護休業法等に関する研修を実施いたしました。

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	－	－	－	63 名
受講者数	－	－	－	63 名
受講率	－	－	－	100 %

2) 労働安全衛生

丸善製薬は、従業員の健康と安全を第一に考え、危険に晒されず、安心感を得るために、可能な限り安全な職場環境を作るよう努めています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
人権の尊重 (労働慣行)	労働安全衛生	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働けることを目指します。	労働安全衛生に関する法令遵守のもと、安全衛生に関する基本ルールの徹底、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤を強固にすることで、従業員が、安全、健康で快適に働ける職場環境づくりを目指します。	

コロナ禍での従業員の安全確保

コロナ禍での従業員の安全確保のために事業所内の自席間の距離の確保やアクリル板による仕切の導入、時差出勤やオンライン会議の推奨、在宅勤務を強化するなど、従業員の安全確保を最優先に対応を実施しました。

在宅勤務時の課題把握のため、総務部門における在宅勤務導入の可能性について検討しました。業務上の紙出力や電話によるやり取りが多いこと等の課題が見つかり、ペーパーレス化の推進や携帯電話の支給により解決できることを確認しました。

在宅勤務利用者数

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
在宅勤務利用者数	0 名	1 名	19 名	25 名

リスクアセスメントの実施

すべての生産事業所において、「安全衛生委員会」を設置し、毎月の安全パトロール、安全職場会議、安全衛生に関する研修を行うことで、継続して安全衛生の高い事業所を維持するためのリスクアセスメント活動を行っています。

その結果に基づいて、危険または健康被害を防止するための措置、関連する作業に従事する従業員への保護具の提供を実施しています。

ブロアーやコンプレッサー、クーリングタワーなど著しく騒音・振動を発生する設備については、行政の検査のもと防音対策などの基準をクリアした設置を行っております。また、機器更新時には、省エネルギーかつ低騒音型機器へ更新するなど、職場環境の改善にも取り組んでいます。

各工場における無災害達成日数は、2023年3月末時点で本社工場 3,794 日、新尾道工場 4,144 日、三次工場 2,823 日を継続しています。

労働災害数（労働災害度数率、労働災害強度率）

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
休業災害件数	0 件	0 件	0 件	0 件
不休災害件数	4 件	4 件	6 件	6 件
死亡災害件数	0 件	0 件	0 件	0 件
労働災害による死者数	0 名	0 名	0 名	0 名
労働災害度数率	0	0	0	0
延べ労働損失日数	0 日	0 日	0 日	0 日
労働災害強度率	0	0	0	0

防災意識向上への取り組み

安否確認アプリを利用した災害訓練、各事業所において防災備蓄品の点検を実施し、防災意識の向上に努めています。防災備品管理ツールを導入した使用期限等の管理検討を開始しました。

これまで広島県内の事業所には AED を設置しておりましたが、新たに東京支店、大阪支店において AED を設置いたしました。

健康診断とストレスチェックの機会提供

すべての従業員に定期的な健康診断の受診とストレスチェック（任意）の受検の機会を提供しております。希望する従業員には健康促進を目的として、自社開発素材を配合したサプリメント（アクティボディ®顆粒）を配布しています。使用感確認のアンケートより、73%の方が健康に対する意識が変わった事、また、継続摂取している方を対象としたアンケート結果では、半数以上の方が何らかの効果を体感できた事などの結果が得られました。

健康診断受診率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
健康診断対象者数	419 名	428 名	437 名	443 名
受診者数	414 名	424 名	431 名	439 名
受診率	98.8%	99.1%	98.6%	99.1%
二次検診対象者数	3 名	3 名	6 名	4 名
二次検診受診者数	1 名	3 名	3 名	1 名
二次検診受診率	33.3%	100.0%	50.0%	25.0%

ストレスチェック受検率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	405 名	413 名	424 名	439 名
受検者数	313 名	320 名	355 名	377 名
受検率	77.3%	77.5%	83.7%	85.9%

有機溶剤健診・特定化学物質健診の受診

品質管理部門、製造部門、研究開発部門では有機溶剤や化学物質を使用します。対象者に対して有機溶剤健診・特定化学物質健診の受診機会を提供しています。

有機溶剤健診・特定化学物質健診受診率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
健康診断対象者数	125 名	139 名	143 名	150 名
受診者数	125 名	139 名	143 名	150 名
受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「禁煙の日」制定

丸善製薬では、若年層の喫煙率が高い傾向にあることから、喫煙率低下に向けた取り組みとして、毎月 22 日を「禁煙の日」として制定しスローガンを設けました。毎月 22 日に喫煙の害と禁煙の大切さを知って実際に行動し、自身の健康を考える機会としていただけるよう、全従業員に「禁煙のススメ～気軽な気持ちではじめましょう～」を共有し呼びかけを行いました。

スローガン

毎月 22 日は「禁煙の日」吸わん吸わん（スワンスワン）で禁煙を！

職場環境の改善

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、「尾道」と直接触れ合う機会が減少いたしました。2021 年度に東京支店の改装を行い、東京にいながら尾道を感じていただける空間づくりのため、製造現場を近くに感じていただけるよう壁材に甘草の根を練り込み、尾道の写真家に撮影いただいた尾道水道の大きな写真を飾り、WEB ミーティング用に大きなスクリーンを設置することで相手が傍らにいる以上に近くに感じられ

るようにしました。感染対策をとりながら人が集まれる場所としてバーカウンター「Pontefract（ポンテフラクト）TOKYO」を設けています。

2022年度は大阪支店にも「Pontefract（ポンテフラクト）OSAKA」を設けました。

また、本社事務所棟の老朽化による耐震工事をを行い、受動喫煙防止のため喫煙室を屋外へ移設いたしました。

安全衛生上の研修実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
対象者数	409名	417名	422名	437名
受講者数	28名	18名	20名	23名
受講率	6.8%	4.3%	4.7%	5.3%

管理職を対象としたメンタルヘルス研修実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
対象者数	—	—	—	63名
受講者数	—	—	—	63名
受講率	—	—	—	100%

～外部からの評価～

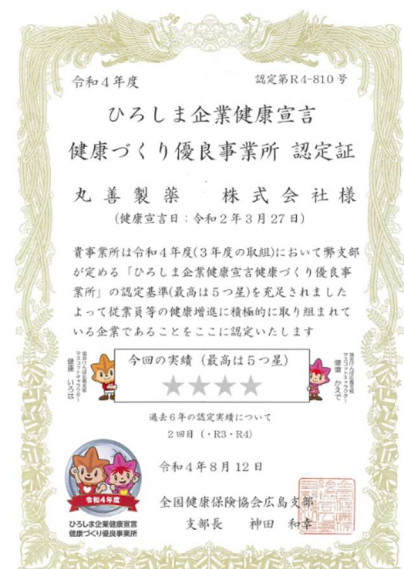
ひろしま企業健康宣言健康づくり優良事業所認定

全国健康保険協会（協会けんぽ）広島支部主催の「ひろしま企業健康宣言」に参加し、2022年度において「ひろしま企業健康宣言健康づくり優良事業所」として、健康増進に積極的に取り組んでいる企業と認定されました。

丸善製薬では、以下の健康づくりに関する取り組み内容等が総合的に評価され認定されております。

～取組内容～

1. 社員皆様の健康の推進の為、希望者にアクティボディ®顆粒の提供を行う。
2. 感染症対策として、職場の環境整備（アクリル板や分散勤務）。
3. ワクチン接種に対する支援（特別有給休暇付与）



健康経営優良法人 2023（中小規模法人部門）認定

経済産業省が主催する「健康経営優良法人 2023（中小規模法人部門）」に認定されました。

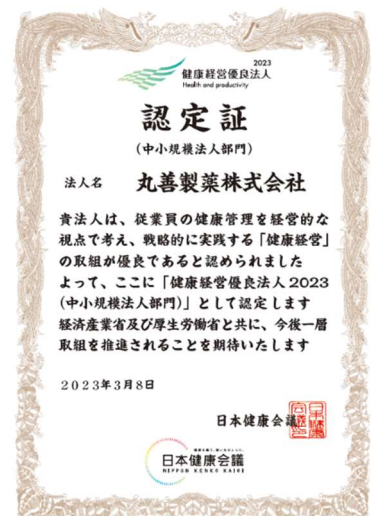
健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目標としています。

丸善製薬では、以下の健康づくりに関する取り組み内容等が総合的に評価され認定されております。

～取り組み内容～

1. 健康診断結果からの会社全体の健康課題の把握
2. 社員希望者へのアクティボディ®顆粒の提供
3. 特定保健指導の実施
4. 同好会活動等の運動の機会拡充に向けた取り組み
5. 感染症対策に向けた取り組み



3) 人材育成

社員の能力や仕事での成果を重視した人事制度を導入しています。高い目標に向かって挑戦することを評価し、その成果と姿勢を処遇に反映することで、従業員の意欲向上につなげています。

また、海外留学制度、資格の取得、社内外セミナーの受講などを通じて従業員のスキルアップをサポートしています。

マテリアリティ		2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100周年：2049年)	2030年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
人権の尊重 (労働慣行)	人材育成	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	4 公平な働き方 8 持続可能な消費 9 産業・イノベーション

～キャリア形成支援制度～

自己申告制度

年に一度、現在の仕事状況や将来担当したい業務、希望する自己開発等について申告し、それを元に上司と面談して自身のキャリアプランを検討する制度です。

複線型職能等級制度

入社後、一定年数が経ってから、自分に合ったキャリア形成を実現するために、総合職と一般職を選択する制度です。

～スキルアップ支援制度～

階層別研修

新入社員から管理職層までの職位に応じた研修を実施、それぞれの階層に必要な教育制度を充実させることで、人的資源を最大限に活用できる人材の育成に取り組んでいます。

一般啓発、自己啓発制度

社員の積極的な自己啓発や業務上必要な能力開発への支援を目的として、マネジメント、ビジネススキル、語学等の資格取得、個人のライフスタイルにかかわる内容など、それぞれの興味や必要に応じた教育制度を設けています。

海外研修生派遣制度

社員の語学修得及びその国の文化、歴史を通じて国際ビジネスマンとして精通する人材を育成するための制度を設けています。制度導入後6名の社員がこの制度を利用し活躍しています。

～1on1 ミーティング～

コロナ禍の影響で事業所への出社制限や在宅勤務の導入により、従業員同士のコミュニケーションの機会が減少しました。

人事考課面談とは別に上司と部下のコミュニケーションの充実、新たな成長機会を創出することを目的として、1on1 ミーティングを実施しています。双方にコミュニケーションをとることで、新たな気づきが生まれ、社員の成長へとつなげています。このような良い結果が期待できる一方で、「運用方法」や「テーマ設定」、「業務負荷の増加」など今後の課題も明らかになりました。引き続き、上司部下の関係性や職場風土にポジティブな影響を出す取り組みとして改善を重ねてまいります。

従業員一人当たりの年間平均研修時間と教育研修費

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
年間平均研修時間	11 時間	8 時間	8 時間	12 時間
教育研修費	110,774 円	45,792 円	58,664 円	71,744 円

業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の総数と割合

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	381 名	387 名	397 名	411 名
男性	277 名	276 名	284 名	289 名
女性	104 名	111 名	113 名	122 名
対象者の割合	93.2%	92.8%	94.1%	94.1%
男性	96.2%	96.2%	97.6%	97.0%
女性	86.0%	85.4%	86.3%	87.8%

4. 環境

環境負荷の低減に取り組み、自然と調和する持続可能な社会の実現に貢献します。

近年、世界では地球温暖化などの気候変動に伴うさまざまな地球規模の環境問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与えています。

丸善製薬は、事業活動が直接または間接的に地球環境に影響を及ぼすことを認識し、環境負荷を低減する取り組みを推進していくため、2022年2月に取締役会での審議を経て、「環境方針」を策定いたしました。今後は、当方針のもと環境負荷低減の取り組みを推進し、継続的な改善を行いながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環境方針

丸善製薬は、健康で豊かな生活を営むために、かけがえのない地球と限りある資源を次の世代に引き継ぐことが責務であることを認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進してまいります。

1. 生産から廃棄に至るまでの全過程において環境に及ぼす影響を十分に理解した上で、環境に配慮した製品開発と製造技術を推進します。
2. 環境保全活動を推進ならびに徹底するために環境マネジメントシステムを整備し改善していきます。
3. 事業活動に使用するエネルギーや水、原材料などは、温室効果ガスの排出削減および環境負荷の低減に配慮し効率的かつ持続可能とする使用を推進します。
4. 事業活動における廃棄物の削減とリサイクルを行うことにより省資源、省エネルギーに取り組めます。
5. 地域社会の一員として、生物多様性に配慮した事業活動を推進するとともに、環境保全活動への参加と社員の自主的な活動への支援に積極的に協力します。
6. 環境保全活動を推進するために社内体制の整備を行い、社員への周知徹底と意識高揚に努めます。
7. 関連する環境の法規制と当社が同意するその他の要求事項の遵守を約束します。

制定：2022年2月9日

1) エネルギー消費と温室効果ガス

丸善製薬は、製品の製造工程や原料の調達、製品の輸送などバリューチェーン全体においてエネルギーを使用し CO2 を排出しています。

2010 年に「エネルギー管理委員会」を発足し、生産拠点となる 3 工場（本社工場・新尾道工場・三次工場）を中心に省エネルギーに取り組むことで環境負荷の低減に努めています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
環境負荷の低減	エネルギー消費量の削減	エネルギー消費量原単位換算で、2013 年度比 40%削減を目指します。	エネルギー原単位換算で、2013 年度比 20%削減を目指します。	
	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量の実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指します。	温室効果ガス排出量について、Scope1、2 において 2013 年度比 46%削減を目指します。Scope3 において 2027 年までに排出量を把握し、2030 年に向け削減していくことを目指します。	

2022 年度の年間エネルギー総消費量は、55,829MWh となり、対前年差 1,944MWh の減（対前年比 3.4%減、2013 年度比 16.3%増）となりました。エネルギー原単位は 37.44MWh／生産量 t となり、対前年差 0.42MWh／生産量 t の減（対前年比 1.1%減、2013 年度比 8.2%減）となりました。

省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）の報告義務として「定期報告書」と「中長期計画書」を提出しており、経済産業省エネルギー庁が設けている「省エネ法事業者クラス分け評価制度」において 2018 年度～2021 年度に続き、2022 年度の定期報告分においても省エネが優良な事業者として「S クラス」の評価を受けることができました。

2022 年度の温室効果ガス排出量は、10,887t-CO2 となり、対前年差 139t-CO2 の減（対前年 1.3%減、2013 年度比 7.2%減）となりました。排出量原単位は、7.29t-CO2／生産量 t となり、対前年差 0.08t-CO2／生産量 t の増（対前年 1.1%増、2013 年度比 26.7%減）となりました。

引き続き、燃料の転換や生産の効率化、環境に配慮した設備の導入、照明の LED 化、太陽光パネルの導入による再生可能エネルギーの利用などを行い、省エネ、CO2 排出量削減に取り組んでまいります。

低炭素燃料への転換

工場設備の稼働に利用する燃料を重油から LNG（液化天然ガス）へ転換することにより、低炭素化を推進しています。2022 年度の温室効果ガス排出量（スコープ 1）は 2013 年度比 8.2%減に抑えることができ、排出量原単位（スコープ 1）は 2013 年度比 27.6%減となりました。

三次工場に続き、新尾道工場、本社工場においても大型設備導入を機に燃料転換の検討を進めてまいります。

生産の効率化

QC 活動から波及した取り組みとして、製造技術の向上と製造管理の徹底によって高効率な生産活動を常に追求し続けています。年 1 回開催される社内発表会では表彰制度が設けられており従業員のモチベーション向上にもつながっております。2022 年度は、アルコールの使用量削減などの取り組みが評価されました。

環境に配慮した設備の導入

3 工場では温室効果ガス排出量の削減に向けて、2022 年度の取り組みとして、本社工場では第一工場の高効率ボイラーへの交換、排水処理曝気ブロワーによる高効率化を実施しました。新尾道工場では第 1 製造棟冷蔵庫リニューアル、珪藻土および蒸気使用量の削減の取り組みを実施しております。三次工場では第二工場にて ECOMO（電力削減対策）の検討を開始しました。また全ての事業所において逐次照明設備を LED 照明へ切り替え、省エネルギーに取り組んでいます。

再生可能エネルギーの利用

新尾道工場、本社分析センターでは自家消費型の太陽光発電設備を設置し発電を行っています。太陽光により発電された電力を従業員厚生棟や定温倉庫などの電力として利用しています。新たに本社製造事務所棟（プロトピアビル）に太陽光発電設備を設置いたしました。

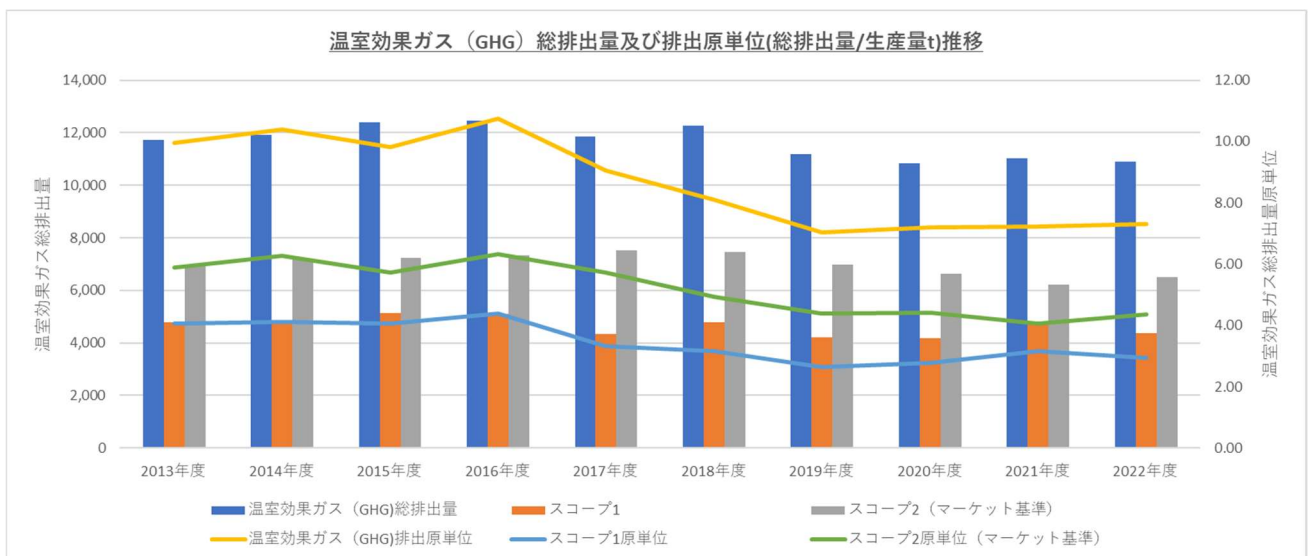
久井ファームでは購入電力について、中国電力「ぐっとずっと。再エネ・グリーンプラン」を契約し、再生可能エネルギー比率 100%電力の利用へと移行いたしました。更なる検討として太陽光発電設備の導入検討を進めてまいります。

2022 年度の再生可能エネルギー総消費量は、221MWh となり、エネルギー総消費量の 0.40%を太陽光発電で賄いました。



エネルギー総消費量と温室効果ガス総排出量

	2013 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	単位
エネルギー総消費量	47,991	51,972	52,979	57,773	55,829	MWh
非再生可能エネルギー総消費量	47,964	51,809	52,801	57,579	55,607	MWh
再生可能エネルギー総消費量	27	163	178	194	221	MWh
エネルギー原単位	40.77	32.75	35.13	37.86	37.44	MWh/生産量 t
温室効果ガス (GHG) 総排出量	11,718	11,181	10,836	11,015	10,877	t-CO2
スコープ 1	4,773	4,205	4,189	4,813	4,379	t-CO2
スコープ 2	6,946	6,976	6,647	6,203	6,497	t-CO2
スコープ 3	-	-	-	-	-	t-CO2
温室効果ガス (GHG) 排出原単位	9.96	7.05	7.19	7.22	7.29	t-CO2/生産量 t
スコープ 1	4.05	2.65	2.78	3.15	2.94	t-CO2/生産量 t
スコープ 2	5.90	4.40	4.41	4.06	4.36	t-CO2/生産量 t
スコープ 3	-	-	-	-	-	t-CO2/生産量 t



大気汚染防止

大気汚染は人の健康や植物、生態系へ影響を及ぼし、窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx) などの大気汚染物質がぜんそくなどの疾患の有症率を高めることが知られています。大気に放出される汚染物質の量や濃度は行政により規制されています。

丸善製薬は、ばいじん、窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx) について測定を行い、大気汚染防止法などの法律や法令を遵守した活動を行っています。

尾道 COOL CHOICE プロジェクトへの賛同

丸善製薬は、環境省が中心となって進めている地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に対して、尾道市が取り組みを推進している「尾道 COOL CHOICE プロジェクト」に賛同、登録いたしました。

た。

CO2 などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の事業活動の中で貢献してまいります。

★尾道 COOL CHOICE プロジェクト★

<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/15/32546.html>

2) 水

丸善製薬は、原料の抽出や設備の洗浄など製品の製造工程において水を使用・排出しており、水資源の問題は重要な環境課題と認識しています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
環境負荷の低減	水使用量の削減 と排水管理	サプライヤーでの環境負荷低減の技術支援を実施し、サプライチェーン全体として水の管理を進めます。	水資源使用原単位量（取水量）について、2013 年度比 10%削減を目指します。	

水資源の危機に直面している地域を特定するために WWF の「Water Risk Filter」や国土地理院の「ハザードマップポータルサイト」を利用し水不足や水質、洪水、高潮などの水ストレスの評価を行っています。

水会計

2022 年度の総取水量は 297ML となり対前年差 9ML の減（対前年 2.9%減）、総排水量は 251ML となり対前年差 16ML の減（対前年 6.0%減）、水消費量は 46ML となり、対前年差 7ML の増（対前年 17.9%増）となりました。

水消費量原単位は 0.031ML／生産量 t、対前年差 0.005ML／生産量 t の増（対前年 19.2%増）となりました。

循環式冷却設備（冷水ユニット、冷却塔）を利用し、水を再利用することで水使用量の節約に努め、総取水量および総排水量は減少いたしましたが、水消費量および水消費量原単位は増加する結果となりました。

排水管理

排水の汚染物質を削減するために排水処理設備を完備し、微生物による浄化処理を行った上で徹底管理のもと排水しています。定期的に広島県の水質評価検査を受け、排水中の汚染物質（COD、窒素、リン）の総重量について測定し、排水基準内であることを評価いただいています。

管理基準については、1971 年に施行された「水質汚濁防止法」、1973 年に制定された「瀬戸内環境保全特別措置法」（瀬戸内法）のもと水質を管理しています。

引き続き、製造用水の節水、徹底した排水管理などを行い事業活動における水消費量の削減、水質汚濁防止法、瀬戸内法に基づいた排水管理に取り組んでまいります。

水の総取水量と総排水量

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	単位
総取水量	307	302	306	297	ML
地表水	1	1	1	1	ML
地下水	1	3	2	3	ML
海水	169	167	166	158	ML
生産随伴水	—	—	—	—	ML
第三者の水(上水)	136	131	137	135	ML
総排水量	268	257	267	251	ML
地表水	76	68	76	70	ML
地下水	—	—	—	—	ML
海水	192	189	191	181	ML
生産随伴水	—	—	—	—	ML
第三者の水	—	—	—	—	ML
総水消費量	39	45	39	46	ML
水消費量原単位	0.025	0.030	0.026	0.031	ML /生産量 t

3) 廃棄物

丸善製薬は、製造過程において廃棄物を排出しています。廃棄物の多くは植物を抽出した後に生じる抽出残渣や各工場の排水に含まれる汚泥、ろ過工程で使用する珪藻土などです。廃棄物の削減に取り組む事は事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、環境保全活動全般に寄与する重要な取り組みです。またサーキュラーエコノミーの浸透に伴い、廃棄物の削減、資源の再利用の重要性は今後ますます高まると認識しています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
環境負荷の低減	廃棄物発生量の削減	5R (Reduce (削減)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化)、Renewable (持続可能な資源の活用)、Repair (修理して使う)) を推進し廃棄物の排出ゼロを目指します。	マテリアルフロー分析を実施し、廃棄物発生量の削減を進めます。 Reduce：プラスチック使用量の削減 Renewable：抽出原料残渣の 100%有効利用化 (堆肥化/燃料化/飼料化)	    

抽出残渣の有効利用

丸善製薬は環境負荷を低減するとともに、自社で有用植物原料の試験栽培を行うため、2007 年広島県三原市に農地約 75,000 m²の久井ファームを設立しました。

久井ファームでは、植物エキスの製造過程で生じる抽出残渣（植物から有用成分を取り出した後の残留物）を焼却処分せず、発酵させて堆肥化し、新たな有用植物の栽培に用いる「循環型農法」を取り入れています。焼却処分を行わずに堆肥として再利用することで、廃棄物の削減だけでなく、焼却時に発生する CO₂ 排出の削減、農地土壌を吸収源とする炭素貯留などによって、環境負荷低減への貢献が期待できます。

2022 年度は、より確実に抽出残渣を処理できるよう堆肥場改修の検討を開始しています。またバイオマス燃料としての納入を開始いたしました。引き続き抽出残渣の有効利用について検討してまいります。



汚泥処理

工場排水に含まれる汚泥処理のために微生物処理を行い下水放流基準値以下に処理して排水しています。排水槽の環境維持のため微生物に好気呼吸の代謝を行わせる装置を設置し、容積負荷率の引き上げ、汚泥減容効果向上、散気効率を高めています。装置の設置により排水設備の負荷が低減され、消費電力の削減にもつながっています。

珪藻土処理

事業活動の規模拡大により、ろ過工程でろ材として利用する珪藻土の使用量が増加しています。珪藻土を含むろ過残渣は堆肥化を進める上で障害となることから現在は外部施設による廃棄処理を行っています。今後はろ過残渣の全量リサイクルを目指した処理方法の検討や珪藻土を利用しないろ過方法の検討が必要と考えています。また、様々な種類の残渣を扱うようになり、堆肥化の条件が十分に確立されないままこれらの残渣を保管することで、腐敗臭の発生に対する近隣住民からの苦情も寄せられていました。一時的に外部施設による処理を行うことでこれらの苦情解決に至っておりますが、将来的な課題解決に向けて堆肥場施設を改修し堆肥化条件確立のための検討を行っています。

2022 年度は、近隣住民の代表者の皆様を久井ファームへお招きして住民説明会を開催いたしました。丸善製薬の農園事業の現状と課題、将来の目指す姿についてご説明させていただき当社事業への理解を深めていただきました。引き続き地域の皆様との関係を密にしながら事業を推進してまいります。



包装資材

製品の包装は、廃棄物削減のため簡易的な包装を導入しています。製品の多くは外装を段ボール箱とし、その内装材にプラスチック製包装資材を使用しています。プラスチックにおける課題については認識しており、さらなる削減の取り組みが必須であると考えています。

包装資材には、製品の品質保持や製品情報の提供などの役割がありますので、今後、こうした役割を担保した上で、資源の枯渇や海洋プラスチック問題を意識しながら、プラスチック使用量の削減や植物由来・再生由来プラスチック容器の使用などの取り組みについて検討し、環境負担の低減に貢献してまいります。

紙使用量の削減

社内資料のペーパーレス化を行いコピー用紙の使用削減に取り組みました。また、ペーパーレス化推進の一環として 2023 年度をもって年賀状による年始挨拶を終了させていただくことをお客様へ案内させていただきました。

有害廃棄物の処分

総合研究所や品質管理部門では研究や検査にともない多種多様な廃棄物が発生いたします。これらの廃棄物は分別を徹底して、専門の処理業者に委託して適切に処分しています。

有害廃棄物総発生量と非有害廃棄物総発生量

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	単位
発生した廃棄物	2,309	2,111	2,352	2,228	t
処分されなかった廃棄物の総重量	0	0	0	0	t
有害廃棄物総発生量	0	0	0	0	t
非有害廃棄物総発生量	0	0	0	0	t
処分された廃棄物の総重量	2,309	2,111	2,352	2,228	t
有害廃棄物総発生量	2	2	3	2	t
非有害廃棄物総発生量	2,307	2,109	2,349	2,226	t

4) 生物多様性

「甘草」のサステナブル調達への取り組み

甘草は丸善製薬にとって重要な植物資源です。将来の甘草の保護と安定的な調達のために 30 年来の学術的交流がある中国科学院（華南植物園）と甘草栽培の共同研究に取り組んでいます。オーストラリアの自社農園（現在は閉鎖）で培ってきた約 20 年間の栽培経験による種苗生産、幼苗育成、栽培管理方法などのノウハウを活かし、優良系統を栄養繁殖した種苗を用いて商業的規模の栽培試験を実施しています。

生物多様性条約・名古屋議定書に基づく遺伝資源へのアクセスへの対応

生物多様性条約は、1992 年に生物多様性の保全および持続可能な利用を目的としてつくられた国際条約です。2010 年には生物多様性条約の実効性を高めるための国際的なルールとして名古屋議定書が採択されました。日本では、2017 年に名古屋議定書の締約国となり、従来に比べて生物多様性条約に対してより一層の注意が必要となりました。丸善製薬は、お客様に安心して製品をご利用いただくために、原料提供国の法令を遵守した遺伝資源の利用に努めています。

5. 公正な事業慣行

お取引様との信頼関係を大切に、公正・透明・自由な競争と適正な取引を行います。

1) 腐敗行為の防止

汚職防止／公正な競争

丸善製薬は、贈収賄、利益相反、詐欺行為、マネーロンダリング、不正商取引を行いません。

経済のグローバル化の進行に伴い、国内だけではなく国際間の商取引に於いても、腐敗防止の要請は高まり、規制も強化されています。

公務員・政治家に対する贈収賄、利益相反、詐欺行為、マネーロンダリング、不正商取引は認めず、公正な競争に取り組みます。

反社会的勢力との関係遮断

丸善製薬は、社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然とした対応を貫きます。従業員への教育を行うとともに、警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

腐敗行為（汚職・贈収賄）に関する研修実績

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	409 名	417 名	422 名	437 名
受講者数	28 名	18 名	20 名	23 名
受講率	6.8%	4.3%	4.7%	5.3%

2) 持続可能な調達

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかり繋ぐことで社会の発展に貢献するために「持続可能な調達方針」を策定し、サプライヤーの皆様からのご支援、ご協力のもと調達活動を実施しています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
持続可能な調達と サプライチェーン マネジメント	持続可能な調達	全ての原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	主要原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	    

持続可能な調達方針

丸善製薬は、すべてのサプライヤーからのご支援、ご協力のもと、持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した調達活動を実施します。

1. 品質本位

自社の品質方針に準拠し、品質、安心、安全を優先した原材料の調達を行います。

2. 公正・公平性

サプライヤーの選定においては、品質、価格、納期、取引条件、保有技術、サービス能力、協力度、安定調達、CSR への取り組み等の観点から総合的な評価により行います。また2社以上のサプライヤーからの競争見積りを原則として、公平な参入機会を提供します。

3. 遵法・倫理

社会の常識、関連する法令や倫理を含む会社の諸規程を遵守し、公正で良識ある調達活動を行います。またいかなるサプライヤーとも個人的な利害関係を持ちません。

4. 協働

サプライヤーとの良好なコミュニケーションのもと、相互理解、信頼関係の構築により、社会の健全な発展を目指します。

5. 人権

強制労働、児童労働、差別、非人道的扱いを支援することはありません。基本的人権を尊重し、労働環境、安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

6. 環境

人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全のために、関係する法令を遵守し、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生する調達活動を実践します。

7. 情報セキュリティの保持

調達活動に関わる機密情報及び個人情報に関する法令を遵守厳重に管理します。

制定：2020年12月9日

改定：2022年2月9日

CSR 関連の認証

～RSPO 加盟～

丸善製薬は、持続可能な原材料調達取り組みとして、パーム油由来原料使用製品の RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil/持続可能なパーム油のための円卓会議) 認証の取得を目指し、2021 年 9 月に加盟いたしました。引き続き、対象工場の認証取得に向けて取り組んでまいります。

CSR 調達の意識啓発

原材料調達や製造委託に関わる従業員に対して、CSR 調達活動や持続可能な調達方針の趣旨について教育を実施しています。方針に基づいた CSR 調達活動を具体的に推進するために外部研修を受講し、さらに外部研修を受講した従業員が講師となって社内研修を実施することで、より理解を深める取り組みとしています。2022 年度は調達に携わる実務担当者 1 名を対象に社内研修を実施しました。

責任ある資材調達に関する研修実績

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
対象者数	7 名	6 名	6 名	6 名
受講者数	0 名	1 名	2 名	1 名
受講率	0%	16.7%	33.3%	16.7%

3) サプライチェーンマネジメント

近年、企業のグローバル化、多角化が進み、多様な取引先がビジネスパートナーとなる中で、CSR (企業の社会的責任) を認識し、サプライチェーン全体でその責任を果たすべきという考え方が急速に広まっています。

丸善製薬は、サプライヤーの皆様とともに取り組む姿勢を明確にするため、2020 年 12 月に「持続可能な調達方針」を策定 (2022 年 2 月に改定) し、2022 年 2 月に「サプライヤー行動規範」を策定いたしました。

これはサプライヤーの皆様にも人権・労働・環境・腐敗防止などに配慮していただき、サプライチェーン全体で CSR 意識を向上させていくためのガイドラインです。今後も引き続きサプライヤーの皆様とのコミュニケーションを活発化させながら、持続可能な調達活動を推進してまいります。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年: 2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
持続可能な調達と サプライチェーン マネジメント	サプライチェーン マネジメント	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	

サプライヤー行動規範

1. 品質と安全性の確保

- (1) 安全を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- (2) 事故や不良品が発生した時は、情報開示、安全対策等の対応を行います。

2. 法令・社会規範の遵守

- (1) 各国・地域で定められた事業に関する法令と社会規範を遵守します。
- (2) 取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。
- (3) 反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- (4) 独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- (5) 会社利益と相反する行為を行いません。

3. 人権の尊重

- (1) 個人の人権と多様性を尊重します。
- (2) 基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- (3) いかなる形態の現代奴隷も一切認めません。
- (4) あらゆる強制労働を一切認めません。
- (5) 児童の道德、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- (6) 結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、労働者の団結権や団体交渉の権利を尊重します。
- (7) 自らの事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- (8) 精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。

4. 環境への配慮

- (1) 事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- (2) 持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用効率の改善を図ります。
- (3) 廃棄物の削減、処理処分の適正化や有効利用を推進します。
- (4) 事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- (5) 大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- (6) 生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

5. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- (1) コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るため

の対策を講じ、定期的に確認を行います。

- (2) 事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- (3) 他者の知的財産権を侵害しません。

サプライヤーとの CSR 協働およびエンゲージメント

～原料別 CSR 質問票の送付～

2022 年度は、仕入総額の約 55%にあたるサプライヤー様へ「持続可能な調達方針」「サプライヤー行動規範」について案内し、丸善製薬の持続可能な調達活動へのご理解とご協力をお願いいたしました。ご案内したすべてのサプライヤー様からご理解とご協力いただけるとのご回答をいただくことができました。また主要な購入原材料ごとに「CSR 質問票」をお送りし、依頼品目の約 70%にあたる原材料についてご回答をいただくことができました。

【「CSR 質問票」質問事項】

1. 法規制・社会規範を遵守し、社会の一員としての責任を果たす体制を整備している。
2. 取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行わないための措置を講じている。
3. 反社会的勢力が関与していない。
4. 性別、年齢、障がいの有無、人種、国籍、性的マイノリティーに対する差別を排除する取組みを行っている。
5. 強制労働、児童労働が行われていないことを確認している。
6. 法定最低賃金の遵守、適切な休暇取得の権利付与等、労働関連法規を遵守している。
7. 生物多様性の保全を意識した事業活動に取り組んでいる。

～サプライヤーアンケートの実施～

今後は、「持続可能な調達方針」に基づき、労働安全衛生、腐敗防止、人権、環境等のリスクが高いサプライヤーを把握するため、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）の「CSR 調達セルフ・アセスメント質問表」を利用したサプライヤーアンケートの実施を計画しています。

引き続きサプライヤー様への「持続可能な調達方針」および「サプライヤー行動規範」の周知、「CSR 質問票」へのご回答、「サプライヤーアンケート」の実施等の取り組みを通じて、サプライチェーン全体での持続可能性の向上に努めてまいります。

4) 財産権の尊重

丸善製薬は、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けたいという企業理念のもと、知的財産権を積極的に取得し活用する事で、自社の事業を保護すると同時に、毎年、営業・研究開発員へ社内研修を実施し、第三者の知的財産権を尊重する風土・体制づくりに努めています。

6. 消費者課題

自然からの恵み（有用性）を、独自の技術により、安心・安全でお客様に満足頂ける高品質な製品として安定提供します。

1) 品質保証

丸善製薬は、お客様が求める高い品質の製品を安定して提供することに注力しています。

お客様の満足度向上のために品質全般を保証・統括する部署を設けて、市場に送り出す製品の品質確保と向上に継続して取り組んでいます。

品質方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「品質方針」を策定し、『顧客満足度向上』ならびに『会社信頼度向上』の実現に取り組めます。

1. 人々の健康と美の実現を願って抽出道を究め、国内外のお客様のニーズと信頼に応える製品を提供します。
2. お客様に「安心・安全」な製品を「安定的」に提供する事を使命とし、品質の確保と向上に取り組めます。
3. 適用される法令・規制要求事項の遵守を基本とし、社会的要求事項に応えます。
4. 品質マネジメントシステムを運用し、その有効性の継続的な改善により信頼性の向上に努めます。

制定：2022 年 2 月 9 日

品質保証体制

丸善製薬の品質保証・統括部門として、工場ごとに品質管理を行う部署を設けており、製品品質を確保するために自社にて設定した製品規格に適合しているか、試験検査を実施しています。

主力である医薬甘草系製品は、GMP を遵守した工場で製造しています。また、三次工場および関連部門では品質マネジメントシステムである国際規格：ISO9001 の認証を取得しています。

製品品質の確保と顧客サービスの向上を目指して、品質検査（原料検査、工程品検査、製品検査など）に関する教育・訓練を受けた検査員が、市場に送り出す製品の品質クレームゼロを目標として、適切な試験の実施に努めています。

製品の安全性管理

製品の安全性については、開発・設計段階から原料の調達も含めて検討を行い、環境への影響や人の健康に対するリスクなどの評価を行います。

内部監査

各工場を対象とした製品品質及び製造環境を考慮した内部監査を年 1 回実施しています。内部監査員は品質保証部門から選任し、教育を施した後に監査を実施します。部外者として工場監査を実施することにより、普段気付いていなかった業務遂行上の改善に役立っています。また指摘事項は他工場に対しても水平展開を行い、全工場として継続的な改善を図っています。

5S の徹底

本社・新尾道・三次の各工場においては、工場ごとに安全衛生委員会を設けており、従業員の労働安全を念頭として月 1 回の安全衛生パトロールと会議を実施して、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）に基づく衛生管理の徹底化を図っています。工場内の衛生管理は、製造する全ての製品の安全確保の基本であり、異物混入や微生物汚染の防止に役立っています。



2) 製品開発

丸善製薬は、人々の健康と美の実現を願って、その達成手段を自然のいのちの中から引き出しみなさまにお役立てします。

健康産業に貢献する中で、私達社員の人間性を高めていく努力はもとより、人々がより人間性の高い生活を営むことができる社会を築くため新しい価値のある事業を創造していく努力を継続します。

植物を中心とした「自然の恵み」をお客様にお届けするために社会課題解決に着目し、天然素材の入手から、医薬品・医薬部外品・化粧品・食品に利用するための技術開発を加えた素材研究開発を主軸に置き、お客様に喜んでご利用いただける製品開発を行っています。

マテリアリティ		2050 年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬 100 周年：2049 年)	2030 年目標	対応する SDGs
重要テーマ	重要課題			
美と健康への貢献	美と健康へ貢献する 製品開発	自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな社会を支え、すべての人が笑顔であり続ける未来を実現します。	■食品 人生 100 年時代到来に向け健康寿命延伸をキーワードに製品開発を実施します。製品の有効性や安全性といった機能面は勿論、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼頂けるモノづくりを実施します。 ■化粧品 エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される化粧品原料開発を行うと共に、お客様の価値創造を徹底的にサポートします。	

製品研究・製品開発の 5 つのキーワード

丸善製薬は、お客様の声に耳を傾け、5 つのキーワード（「植物」「美と健康」「抽出・精製・発酵技術」「安心・安全」「サステナビリティ」）に基づいて製品研究・製品開発を行っています。現代は、美に対する価値観の多様化、超高齢化社会により健康への関心が高まっています。私たちは、これまで培ってきた研究開発力を結集し、自然の恵みのチカラを活かして、美と健康の課題解決に貢献してまいります。

～食品事業～

世の中の環境変化が激しくなる中、健康寿命延伸に求められるものは、「食の楽しさ」と「健康機能」であると考えています。自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな食生活を通してすべての人が笑顔であり続ける未来を実現するために、有効性や安全性といった機能面はもちろん、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼いただけるモノづくりに取り組んでいます。

～薬粧事業～

価値観が多様化していく中、私たち一人ひとりが「なりたい自分」と「なりたい肌」に向き合う必要があると考えています。植物に秘められた自然の恵みを世界につなぎ、化粧品を通じてすべての人が笑顔であり続ける未来を実現するために、エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される原料開発を行うと共にお客様の価値創造を徹底的にサポートしています。

研究成果発表

丸善製薬は、素材探索から製品研究・製品開発まで、社会課題の解決やお客様ニーズに対応するための分析技術・評価技術の研鑽・向上に取り組んでいます。製品研究・製品開発のプロセスで得られた知見は、学会や論文誌などを通じて発表しています。



～皮膚線維芽細胞の若返りに関する発表～

高知大学（総合科学系複合領域科学部門・難波卓司准教授）との共同研究により、「ハス胚芽エキス」に老化した皮膚線維芽細胞を若返らせる作用があることを解明しました。これは皮膚線維芽細胞が老化した際にミトコンドリアの機能が主要な老化マーカーの変化に先行して低下することを突き止めたことによるものです。この研究結果は化粧品技術に関する国際学会である IFSCC2022 ロンドン大会で新たな知見として発表されました。

～ストレスによる悪影響低減に関する発表～

「レイシエキス」に慢性ストレスによる肌への悪影響を低減する効果が期待できることを確認しました。これは慢性的ストレス状態における表皮角化細胞ではコルチゾール代謝酵素（ 11β HSDs）の働きを介してコルチゾールの感受性が高まり、表皮のバリア機能の低下が引き起こされることを確認したことによるものです。この研究結果は化粧品技術に関する国際学会である IFSCC2022 ロンドン大会で新たな知見として発表されました。

～リンパ管新生促進に関する発表～

鹿児島大学大学院（医歯学総合研究科）との共同研究により、「ヒハツエキス」とその含有成分の一つである「ピペリン」に AKT および ERK 依存的なメカニズムを介してリンパ管新生を促進することにより、リンパ機能の低下に起因するむくみを低減する可能性を明らかにしました。この研究結果は査読付き論文誌「ジャーナル・オブ・フード・バイオケミストリー」に掲載されました。

製品開発と評価・表彰

丸善製薬は、これまで人々の美と健康の課題を解決するための多くの製品を開発してまいりました。出品した製品が展示会やイベントなどで評価され表彰されています。

～アクティボディ®顆粒／アクティボディ®顆粒 b／アクティボディ®顆粒 w～

「アクティボディ®顆粒」が「脂肪の減少」に関するヘルスクレームで機能性表示食品として消費者庁に受理されました。3-(4-ヒドロキシ-3-メトキシフェニル)プロピオン酸（HMPA）を機能性関与成分としての届出受理は史上初となります。

また、「アクティボディ®顆粒 b」が「食後に上昇する血糖値をもとに戻しやすくする」、「アクティボディ®顆粒 w」が「腹部の脂肪とウエスト周囲径を減らす」の新しいヘルスクレームで機能性表示食品として消費者庁に受理（G1098／H183 ／H384）されました。

* HMPA は 3-(4-Hydroxy-3-Methoxyphenyl)Propionic Acid の略称

～尾道健膳館®黄杞茶 PET500mL～

「尾道健膳館®黄杞茶 PET500mL」が HMPA を関与成分として、「BMI が高めの方の腹部の脂肪を減らす」のヘルスクレームで機能性表示食品として消費者庁に受理（H263）されました。

～アクティボディ®玄米ごはん～

「アクティボディ®玄米ごはん」が HMPA を機能性関与成分として、「食後血糖値が高めの方の食後に上昇した血糖値を下げる」のヘルスクレームで機能性表示食品として消費者庁に受理（H988）されました。

～アクティボディ®RB～

「アクティボディ®RB」が展示会ウェルネスライフジャパン 2022 の「ウェルネスフードアワード 2022」において食品素材部門で銀賞を受賞しました。

～和 ism®＜ワイルドタイム＞～

和 ism®＜ワイルドタイム＞は、多様性とインクルージョン（様々な世代、背景の人が集まり、お互いに認め合いながらその個性を発揮できる状態）の理念のもと、「年齢にとらわれない美しさ」をテーマとしたエイジングケア機能性化粧品原料です。世界的化粧品アワードである「BSB Innovation Award 2022」の最も革新的なアクティブ原料（ハリ・保湿・バリア）部門において第 1 位を獲得しました。

新商品

2022 年度も 3 品の新製品を開発することができました。引き続き製品提供を通じて美と健康の課題解決に貢献してまいります。

～クリアブラックジンジャー®～

クリアブラックジンジャー®は、ブラックジンジャーの独特な風味や溶解性、色調に関する課題を独自の製法によって解決し、幅広い食品に利用しやすくした機能性食品原料です。ブラックジンジャーに含まれる「ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボン」には脂肪の減少や脂肪の消費をはじめ、中高年の歩行能力の維持といった機能が報告されています。ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンを関与成分とした食品が機能性表示食品として受理されています。

～和 ism®＜エゴマ葉＞～

和 ism®＜エゴマ葉＞は、頭皮環境を整え毛髪の成長をサポートする機能性化粧品原料です。「頭皮×マイクロバイオーーム」に着目した研究成果が応用され、抜け毛や白髪を抑制する効果がヒトボランティア試験で確認されています。原材料のエゴマの若葉は広島県産の栽培過程で廃棄されるものを使用しているアップサイクル製品です。

～尾道健膳館®黄杞茶 PET500mL～

尾道健膳館®黄杞茶 PET500mL は、HMPA を機能性関与成分とした機能性表示食品です。BMI が高めの方の腹部の脂肪を減らす機能が報告されています。黄杞は、ほのかな甘みが特徴のクルミ科の植物で、原産地である中国南部では、古くから黄杞葉のお茶が健康茶として飲用されています。ノンカフェインのため、就寝前の水分補給にもおすすめの清涼飲料水です。

薬事対応

薬粧商品は医薬品や化粧品配合成分として用いられるものなので、各国の関連法規制に従う必要があります。お客様に安心してご使用いただけるよう、必要な許認可の取得や配合可否の判断を行います。また、自社商品の枠にとどまらず、各国の最新の法規制情報を入手、解析し、お客様や社内関連部署に提供しています。

その他の活動

～記念日の制定～

- ・ブラックジンジャーの日（毎年7月10日）

発売10年を迎えたブラックジンジャーの更なる発展と市場拡大を目的として毎年7月10日を「ブラックジンジャーの日」と制定し、一般社団法人日本記念日協会によってこの日が正式に「ブラックジンジャーの日」として登録されました。この日付は丸善製薬がブラックジンジャーの食薬区分を厚生労働省に照会し、2013年に食薬区分の非医薬品リスト収載が通知された日付となります。

～学会／協会／研究会／NPO～

- ・学会

日本水産学会、日本栄養・食糧学会、日本香粧品学会、日本皮膚科学会、日本食品化学学会、日本血管生物医学会、和漢医薬学会、ファンクショナルフード学会 ほか

- ・協会

菓子・食品新素材技術センター、広島バイオテクノロジー推進協議会、広島県製薬協会、日本抗加齢協会、日本医薬品原薬工業会、日本植物園協会、日本植物防疫協会、日本食品添加物協会、日本ライセンス協会、福山地区危険物安全協会、ひろしま産業振興機構、広島県発明協会、三次労働基準協会三次支部、備北地区危険物安全協会、近畿化粧品原料協会、西日本化粧品工業会、日本化粧品技術者会西日本支部、ステビア工業会、日本栄養評議会（CRN JAPAN）、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、九州醤油醸造用品協会、西日本醤油醸造用品協会、東京化粧品工業会、東京都漬物事業共同組合、日本化粧品技術者会東日本支部、毛髪科学技術者協会、Personal Care Products Council（米国化粧品工業会：PCPC）、関西医薬品協会、関西医薬品協会薬事法規研究委員会、東京化粧品工業会原料部会、日本ボイラ協会広島支部、日本健康・栄養食品協会、日本食品・バイオ知的財産権センター、日本知的財産協会、日本浴用剤工業会、日本医薬品添加剤協会、健康食品産業協議会、パクチーアカデミー協会 ほか

- ・研究会

柿渋・カキタンニン研究会、茶学術研究会、日本食品機械研究会、Tie2・リンパ・血管研究会、美容・アンチエイジング研究会、セラミド研究会、ノビレチン研究会、日本香辛料研究会、山梨県食品技術研究会、薬業健康食品研究会、腸内細菌をターゲットとした食品開発研究会、発酵と酵素の機能食品研究会 ほか

- ・NPO 法人

食品治療学研究所、アーユルシード生活環境研究所

～外部からの評価～

・中国地方発明表彰（発明奨励賞）

エイジツエキスの「顔の毛穴目立ち抑制剤（特許第 5164198 号）」が中国地方発明表彰発明奨励賞を受賞いたしました。地方発明表彰は、明治 37 年に設立された発明協会の表彰事業の内、大正 10 年より開始した歴史ある表彰事業であり、実施されている優れた発明、考案又は意匠を生み出した技術者・研究開発者を顕彰するものです。



～社内アイデア提案会の開催～

新たな研究テーマ、新たな開発テーマはアイデア提案会から検討されることもあります。アイデアは丸善製薬「行動規範」に沿って、社会課題解決をテーマとして提案する仕組みになっています。役員・執行役員・顧問契約している大学教授に参加いただき、投票結果やアドバイスをもとに将来の自社製品テーマとして具体的な議論が進められます。

3) 製品情報へのアクセス

丸善製薬は、製品情報へのアクセス手段として会員制 HP「総合プロダクトガイド」を設けています。

「総合プロダクトガイド」では、化粧品原材料や食品原材料の製品パンフレット、技術資料、品質関連書類、最新ニュースなどを提供、「化粧品原料一覧」では、化粧品、医薬部外品の表示名称から、そして「食品原料一覧」では食品原料の素材名から各原材料が検索・確認でき、原材料情報へのアクセスを簡便化しています。

商品開発にお役立ていただける様に「解説動画」では成分の有効性や特徴を動画でわかりやすく解説、そして「みんなの意識調査」では丸善製薬独自の視点で実施した消費者調査結果を公開しています。

また「専門家 VOICE」ページでは、健康や美容に関連する様々な専門分野で活躍されている有識者に丸善製薬がインタビューし、注目の学説や耳よりな情報を学びのコンテンツとして提供しています。

丸善製薬株式会社総合プロダクトガイド：<https://www.maruzenpcy.co.jp/productguide/>

メールマガジン、WEB セミナーの実施により、丸善製薬の製品情報をお届けしています。

これら会員制 HP での情報掲載に加え、取引先向けメールマガジンで最新情報の配信、WEB セミナーを活用して商品開発にお役立ていただける商品情報の配信やコンセプトのご提案など WEB を活用した施策を行うと共に、化粧品・食品各分野の展示会にも出展するなど、様々な手法で丸善製薬の製品情報をお届けしています。

7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

良き企業市民として、地域・社会とのコミュニケーションを積極的に図り、社会貢献に取り組みます。

1) コミュニティへの参加

“Work locally. Think globally”(尾道から世界を考える)を实践する企業として、尾道から世界へ新たな価値をお届けし、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

主な協賛活動

おのみち住吉花火まつり（住吉神社例大祭）／2019 年 * 2020 年・2021 年・2022 年は中止

<https://onomichi-cci.or.jp/hanabi/>

瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ 2022」／2022 年

<https://cycling-shimanami.jp/>

第 1 回せとだレモンマラソン／2022 年

<https://lemon-marathon.jp/gaiyou/>

社員が参加する活動

尾道みなと祭「ええじゃん SANSA・がり踊り」／2019 年 * 2020 年・2021 年・2022 年は中止



向島駅伝／2020 年 * 2021 年・2022 年は中止



災害・復興支援

丸善製薬では、大規模災害等により被害にあわれた地域の方々へ、義援金の寄付や商品の提供、社員のボランティア活動などの支援を行っています。

広島県大雨災害義援金（2014 年・日本赤十字社）

熊本地震震災義援金（2016 年・日本赤十字社）

西國寺土砂災害復旧ボランティア（2016 年・8 名参加）

西國寺災害復旧総合防災事業（2017 年・西國寺）

広島県豪雨災害義援金（2018 年・日本赤十字社）ほか

清掃・ゴミ拾い活動

事業所周辺の清掃、事業所周辺のカーブミラーの清掃



久井ファーム休日開放

2022 年 10 月 19 日に久井ファーム休日開放を行いました。新型コロナウイルス感染防止に配慮し来場制限を設けての開催となりましたが、約 150 名の従業員および家族の皆様にお集まりいただきました。



社会貢献活動等の表彰制度

丸善製薬では、従業員の社会貢献活動を推奨しています。従業員の各種団体からの表彰や永年にわたる社会貢献活動に対して、表彰制度を設けています。2022 年度は 5 件の申請があり、5 件が表彰されました。

久井ファーム住民説明会の開催

2022 年度は、近隣住民の代表者の皆様を久井ファームへお招きして住民説明会を開催いたしました。丸善製薬の農園事業の現状と課題、将来の目指す姿についてご説明させていただき当社事業への理解を深めていただきました。住民の皆様からのご意見をもとに、年 1 回の水質検査報告と居住区付近の農道へのカーブミラー設置を検討することとなりました。

尾道 COOL CHOICE プロジェクトへの賛同

丸善製薬は、環境省が中心となって進めている地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に対して、尾道市が取り組みを推進している「尾道 COOL CHOICE プロジェクト」に賛同、登録いたしました。CO2 などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の事業活動の中で貢献してまいります。

★尾道 COOL CHOICE プロジェクト★

<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/15/32546.html>

2) 社会的投資

寄付

～創立 70 周年記念事業の寄付／2020 年～

2020 年 1 月に創立 70 周年記念事業の一つとして、尾道市の新庁舎整備事業に寄付いたしました。「市民の憩いの場」「観光客が訪れるスポット」が整備されました。

- ・ 護岸沿いの街灯 10 灯
- ・ 多目的スペース会議机 80 台／チェア 300 脚
- ・ 来庁者カウンター椅子 118 脚
- ・ 庁舎 1 階開放スペース／キッズスペース一式
- ・ 庁舎 1 階デッキテーブル付ベンチ 2 台
- ・ ロビーソファ（多人数掛）一式

また関連自治体である広島市、福山市、三原市、三次市へそれぞれ寄付いたしました。

～五龍川貯留施設へのバスケットゴール寄贈協賛／2022 年～

2022 年 8 月に B.LEAGUE 広島ドラゴンフライズ様を通じて五龍川貯留施設（三次市）へのバスケットゴール寄贈に協賛いたしました。

五龍川貯留施設は、平成 30 年 7 月豪雨災害により浸水被害を受けた、畠敷・願万地地区の床上浸水被害の解消を目的とした施設です。

～尾道市図書館への健康本の寄贈／2022 年～

2022 年 6 月に地元尾道市の図書館へ、地域の皆さまへの健康情報の発信を目的に、以下 3 種の健康本を寄贈いたしました。

- ・ブラックジンジャーで育筋・美筋・強筋
- ・パイナップルぶるぶる本
- ・カラダの芯からキレイになる！美容酵素 Tie2（タイツー）マジック

2022 年 7 月中旬以降、尾道市内の図書館にて貸出が開始されています。

丸善製薬は美と健康に関わる企業として、健康情報の発信を続けてまいります。

～尾道市内小・中学校への尾道健膳館[®]シリーズ（ドリンク）の寄付／2022 年～



～尾道市子どもの居場所づくりネットワークへの尾道健膳館[®]シリーズ（ドリンク）の寄付／2022 年～
子供や生活困窮者向けに食品等提供する「尾道市子どもの居場所づくりネットワーク」へ尾道健膳館[®]シリーズ（ドリンク）の通年寄付を開始しました。